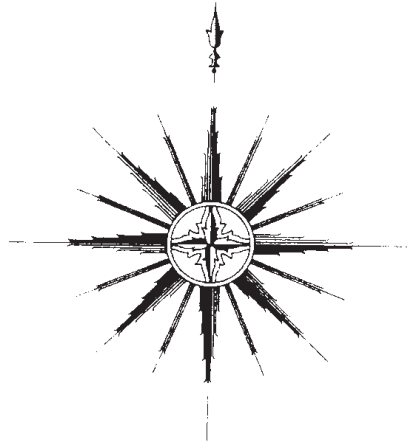


## 研究活動報告

(2016年4月～2017年3月)



### 凡 例

- (1) 現在の研究テーマ
- (2) 著書、論文、その他
- (3) 研究発表、講演
- (4) 学外集中講義など
- (5) 海外出張・研修、そのほかの海外での活動など
- (6) 科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など
- (7) 共同研究、受託研究など
- (8) 学会・研究会・講演会などの開催

## ○文化財論講座

### 須藤 弘 敏

#### (1)現在の研究テーマ

- 仏教絵画史、近世地方仏、文化政策

#### (3)研究発表、講演

[講演]

- 須藤弘敏「北東北の仏像・神像」浄土宗青年部会東北ブロック研修会 ホテル青森 2016年10月11日

#### (5)海外出張・研修、その他の海外での活動など

- 2017年3月26日～30日 フランス, Musee Dapper, Musee Quai Branly ほか

#### (6)科学研究費補助金、その他の競争的研究資金など

- 基盤研究 (C)「近世地方仏の調査研究」研究代表者 (2015～18年度)
- 基盤研究 (B)「在欧日本仏教美術の包括的調査・デジタル化とそれに基づくジャポニズムの総合研究」研究分担者 (2016～2019年度)

#### (8)学会・研究会・講演会などの開催

[それ以外のもの]

- 第14回坂本日深学術賞受賞、立正大学、2016年10月

### 杉 山 祐 子

#### (1)現在の研究テーマ

- 在来知、農民によるイノベーション過程としてのアフリカ農村の変化 (FIH: Folk Innovation History, or LIH: Local Innovation History)、開発プロジェクトの「その後」
- グローバル化の進展と現金の社会化、ジェンダー
- 北東北地域における小規模アグリビジネス

#### (2)著書、論文、その他

[論文]

- Sugiyama Yuko, 「The Institution of “Feeling”: On “Feeling Inside” and “Institutionalized Envy”」, Kawai Kaori (ed.) Institutions, Kyoto University Press, pp.349-370 2017年3月

[その他]

- 白石壮一郎・近藤史・杉山祐子「地域ファシリテーションのアクション・リサーチおよび教育開発」『平成28年度 地域未来創生センタージャーナル』2017年2月 pp.65-70
- 杉山祐子・日比野愛子・平井太郎ほか「青森地域におけるヒト・文化・モノの再生産過程とその新たな循環を考える」『平成28年度 地域未来創生センタージャーナル』2017年2月 pp.91-96
- 近藤史・白石壮一郎・杉山祐子「リング農村の持続的展開—未来を見据えて現在を見る—」『平成28年度弘前大学人文学部社会調査実習・平成28年度弘前大学若手・新任研究者支援事業課題番号5 報告書：リング農村の持続的展開—未来を見据えて現在を見る—』2017年3月

#### (3)研究発表、講演

[研究発表]

- 杉山祐子 「東アフリカ農牧民社会の現代の変容：現金経済・都市化・土地問題②—家計簿にみる現金野必要性和現金づかいの諸相—」日本アフリカ学会第53回学術大会 2016年6月5日 日本大学生物資源科学部
- 杉山祐子「母になるか姉妹になるか—焼畑農耕民の離合集散と社会の重層化をかんがえる」第32回日本霊長類学会 2016年7月15日 鹿児島大学
- 杉山祐子「Agrarian Innovation and the Accessibility to Resources:a Case Study of the Miombo Woodland of Sub-Saharan Africa」XIV World Congress of Rural Sociology 2016年8月10日 Ryerson University, Toronto, Canada
- 杉山祐子「Local Innovation and Emerging Resources: Are We Moving towards a New Platform?」7th International Workshop Agro-pastoral Societies in Transition: Cash Economy, Urbanization, and Land Issues 2016年8月27日 Africa Moral Economy, VETA, Dodoma, Tanzania
- 杉山祐子「Grassroots Innovation in “Natural Society”」7th International Workshop on Africa Moral Economy 2016

年12月9日 Shiran Kaikan, Kyoto University

- 杉山 祐子「Moral Economy and Social Stratification in Rural Africa」 7th International Workshop on Africa Moral Economy 2016年12月10日 Kyoto University
- 杉山祐子「群れからムラへー焼畑農耕民ベンバの村の分裂・再生サイクルと祖霊信仰ー」第890回日本民俗学会談話会 2016年12月11日 成城大学
- 杉山祐子「生業への現金の介在とその小規模性にみる可能性」グローバル化するアフリカ農村と現金の社会化をめぐる人類学的研究課題研究会 2017年1月22日 アソベの森いわき荘会議室
- 杉山祐子「地域づくり総合研究部門成果発表：青森の良さへの気づきを育てたい」地域未来創生センターフォーラム「人口減少社会における持続可能な地域づくりを考える」2017年2月3日 土手町コミュニティパーク

(5)海外出張・研修、その他の海外での活動など

- 2016年8月 トロント（カナダ）学会参加、成果発表（IRSA）
- 2016年8月 ドマ（タンザニア）「グローバル化するアフリカ農村と現金をめぐる人類学的研究」に関する現地調査

(6)科学研究費補助金、その他の競争的研究資金など

- 基盤研究（B）「グローバル化するアフリカ農村と現金をめぐる人類学的研究」（研究代表者）H25～H28

(7)共同研究、受託研究など

- 共同研究：東京外国語大学アジアアフリカ言語文化研究所共同研究「人類社会の進化史的基盤研究（3）」
- 共同研究：東京外国語大学アジアアフリカ言語文化研究所共同研究「アフリカ農業・農村社会史の再構築：在来農業革命の視点から」
- 受託研究：農山漁村「地域経営」（地域社会研究科受託研究）

(8)学会・研究会・講演会などの開催

[弘前大学人文社会科学部主催または共催のもの]

- 日本アフリカ学会東北支部会特別公開講義
- ドキュメンタリー映画『女を修理する男』日本アフリカ学会東北支部会弘前
- 日本アフリカ学会東北支部会例会
- グローバル化するアフリカ農村と現金の社会化研究会

## 宮 坂 朋

(1)現在の研究テーマ

- ローマ美術における私的領域から公的領域への格上げの問題

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 宮坂朋「ヴドゥラ・エウロポス・シナゴグ西壁面の壁画」[第23回ヘレニズム～イスラーム考古学研究会]、金沢大学地域連携推進センター、2016年7月1日

## 山 田 巖 子

(1)現在の研究テーマ

- 潜在的な宗教者、民俗信仰の再文脈化、世間の認識と世間話

(2)著書、論文、その他

[報告書]

- 山田巖子監修・民俗学実習履修学生編『小川原湖民俗博物館弘前大学寄託旧蔵資料調査報告』2017年3月 弘前大学民俗学研究室 2017年3月 pp.148
- 山田巖子・柴田彩子編『亀倉加久子調査資料②（増補・改訂）会津のオシンメサマ』2017年3月 pp.191  
弘前大学人文社会科学部

[新刊紹介]

- 山田巖子編『シンポジウム記録 津軽の年占行事「七日堂祭」を考える』2017年3月 弘前大学地域未来創生センター pp.49

[論文]

- 山田巖子「潜在的な宗教者をめぐる予備的考察」山田巖子編『潜在的な宗教者と知識の配置をめぐる民俗学的研究』2017年3月 弘前大学人文社会科学部 pp.3-14

[その他]

- 渡辺麻里子・山田巖子「地域の民俗や文献資料など文化資源の調査研究と公開および地域ネットワークの構築」『地域未来創生センタージャーナル』2017年2月 pp.76-77
- 山田巖子「上十川獅子踊」第58回北海道・東北ブロックの民俗芸能大会実行委員会編『第58回 北海道・東北ブロック 民俗芸能大会記録』2017年2月 pp.23-27 岩手県教育委員会生涯学習課
- 山田巖子「『妖怪談義』談義」佐々木達司（津軽民話の会）編『津軽の民話 落ち穂拾い』2017年3月 pp.2-3

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 山田巖子「趣旨説明：市民と博物館」2016年9月24日 於：弘前大学人文社会科学部 弘前大学地域未来創生センターフォーラム『市民と文化財フォーラム第2回 博物館的想像力：渋沢敬三と今和次郎—民具学・考現学と青森県—』
- 山田巖子「オシラ神信仰と「知識」—「個人的なるもの」をめぐって—」2016年10月1日 於：千葉商科大学 日本民俗学会68回年会
- 山田巖子「鬼をめぐる知識の配置とその活用—津軽における鬼信仰をめぐって—」2016年11月12日 於：京都女子大学 説話・伝承学会2016年度秋季大会
- 山田巖子「民俗の再文脈化—烏語をめぐる考察—」2017年3月 於：大乘院庭園文化館 柳田國男研究会

(4)学外集中講義など

- 放送大学対面授業 2016年5月7日～8日

(6)科学研究費補助金、その他の競争的研究資金など

- 基盤研究(C)「潜在的な宗教者と知識の配置をめぐる民俗学的研究」(研究代表) 平成26年度～28年度
- 基盤研究(C)「人形芝居における儀礼の復活と門付の伝統に関する研究—淡路人形芝居を中心として」(研究分担者) 平成27年度～29年度

(8)学会・研究会・講演会などの開催

[弘前大学人文社会科学部主催または共催のもの]

- 弘前大学人文社会科学部地域未来創生センター主催 センターフォーラム『市民と文化財第2回 博物館的想像力：渋沢敬三と今和次郎—民具学・考現学と青森県—』

## 関 根 達 人

(1)現在の研究テーマ

- 縄文 中近世考古学 北方史 石造物

(2)著書、論文、その他

[著書]

- 関根達人『モノから見たアイヌ文化史』、単著、2016年6月、吉川弘文館

[論文]

- 関根達人「安政の開港と出土陶磁器—なぜコンブラ瓶は北海道から出土するのか—」『中近世陶磁器の考古学』第4号、pp.163-184、単著、2016年10月、雄山閣

[報告書]

- 関根達人編『越前敦賀湊の中近世墓標』(科学研究費基盤研究A「石造物研究に基づく新たな中近世史の構築」研究成果報告書2)、共著、2016年7月、弘前大学人文社会科学部文化財論研究室

[書評]

- 関根達人「書評『縄文時代における脱殻・粉碎技術の研究』」『季刊考古学』第135号、pp.105、2016年5月、雄山閣

[その他]

- 関根達人「奥州市大安寺水沢伊達家六代室墓から出土した女乗物」『いわて文化財』第267号、p.4、2016年6月、一般社団法人岩手県文化財愛護協会
- 関根達人「五月女菰遺跡出土縄文土器の編年と組成」『五月女菰遺跡(第2分冊本文編2)』第34巻、pp.380-419、2017年3月、五所川原市教育委員会

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 関根達人・柴正敏・辻綾子「胎土中の火山ガラス分析による縄文土器の製作地推定」ポスター、共同、日本考古学協会第82回総会研究発表、東京学芸大学、2016年5月29日

[講演]

- 関根達人「本州アイヌと地域社会」、弘前大学むつサテライトキャンパス開講式記念講演、単独、むつ市立図書館あすなろホール、2016年7月2日
  - 関根達人「アイヌ文化における酒とタバコ」、公益財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構主催平成28年度アイヌ文化普及啓発セミナー、単独、北海道立道民活動センター、2016年7月26日
  - 関根達人「アイヌ社会における日本製品の受容」、公益社団法人北海道アイヌ協会主催国際先住民族の日記念事業シンポジウム「考古学・人類学とアイヌ民族」、単独、札幌国際ビル国際ホール、2016年8月6日
  - 関根達人「アイヌ文化における酒とタバコ」、公益財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構主催平成28年度アイヌ文化普及啓発セミナー、単独、アイヌ文化交流センター（東京）、2016年8月23日
  - 関根達人「青森県の縄文遺跡と世界遺産」、三沢市生涯学習講座、三沢市公会堂、2016年10月21日
  - 関根達人「考古学から見たアイヌと和人」、弘前大学人文社会科学部国際公開講座、単独、弘前大学人文社会科学部国際公開講座2016、2016年11月3日
  - 関根達人「亀ヶ岡文化と大森勝山遺跡」、弘前市教育委員会主催平成28年度史跡等公開活用事業「大森勝山遺跡シンポジウム」、単独、ヒロロ4階弘前市民文化交流館、2016年11月5日
  - 関根達人「アイヌ文化における酒とタバコ」、公益財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構主催平成28年度アイヌ文化普及啓発セミナー、単独、帯広百年記念館、2016年11月26日
  - 関根達人「考古学から見た中近世北方交易とアイヌ文化」、八戸市是川縄文館考古学講座（平成28年度後期）、単独、八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館、2017年2月4日
- (6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など
- 基盤研究（A）「石造物研究に基づく新たな中近世史の構築」（研究代表者）平成26～30年度
  - 基盤研究（B）「近世国家境界域「四つの口」における物資流通の比較考古学的研究」（研究分担者）平成28～32年度
  - 挑戦的萌芽研究「北海道・東北を中心とする北方交易圏の理論的枠組み構築のための総合的研究」（研究分担者）平成25～28年度
- (7)共同研究、受託研究など
- 「宮城県栗原市史跡山王団遺跡出土漆器の研究」（研究代表者）、平成27～31年度
- (8)学会・研究会・講演会などの開催
- 日本考古学協会2016年度弘前大会（大会実行委員長）、2016年10月15～17日、弘前大学
- [それ以外のもの]
- 第6回日本考古学協会大賞、一般社団法人日本考古学協会、2016年5月28日

## 足 達 薫

(1)現在の研究テーマ

- イタリアのルネサンス美術における記憶術と魔術の同調作用

(2)著書、論文、その他

[著書]

- 金山弘昌監修解説、出加奈子、足達薫、金山弘昌著『魔術の生成学 ピエロ・ディ・コジモからパラッツォ・ピッティへ』ありな書房、2016年11月10日。

[論文]

- 足達薫「『源氏物語』六十四貼の名目を暗記せんとせば—『物覚秘伝』と西洋世界の記憶術」、弘前大学人文社会科学部編『人文社会科学論叢』第二号、2017年、2月28日、pp. (1) - (30) .

[その他]

- 足達薫「社会的要請の高い分野」とは何か—地域志向型大学の現在と未来」、『大学出版』No. 106、春号、2016年4月1日、pp.20-25.

(4)学外集中講義など

- 東北大学大学院文学研究科、美学・西洋美術史各論Ⅰと美学・西洋美術史特論Ⅰ、授業題目「マニエリスム形成期における美術と「魔術的なもの」」、2016年7月25-28日。

(5)海外出張・研修、そのほかの海外での活動など

- 2016年9月イタリア（パルマ、ローマ）でのフィールドワーク調査、資料収集（科研費）。
- 2016年2月フランス（フォンテーヌブロー、パリ）でのフィールドワーク調査（科研費）。

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 基盤研究（C）「マニエリスム形成期における記憶術の影響についての研究」平成27～30年度

## 植月 学

(1)現在の研究テーマ

- 人と動物の関係史、食文化史

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 植月 学「甲州竿にみる甲州釣り文化の一樣相」『山梨県立博物館研究紀要』第11集、pp.1-12、単著、2017年3月
- 植月 学「甲斐における牛馬の考古学」『甲斐』第141号、pp.16-28、単著、2017年1月
- 覚張隆史・植月 学「同位体化学分析に基づく山梨県域遺跡出土馬の給餌形態の復元」『山梨県考古学協会誌』24号、pp.81-97、共著、2016年5月

[報告書]

- 植月 学「出土した馬骨」『甲府市文化財調査報告書86 武田城下町遺跡IX』、p.169、単著、2017年3月、甲府市教育委員会ほか
- 植月 学・服部智至「小型獣」『首都圏中央連絡自動車道埋蔵文化財調査報告書32』、pp.616-623、共著、2017年3月、公益財団法人千葉県教育振興財団ほか
- 植月 学「北下遺跡から出土した動物遺体」『東京外かく環状道路埋蔵文化財調査報告書11』、pp.121-132、単著、2017年3月、公益財団法人千葉県教育振興財団ほか
- 植月 学「宮の前遺跡Ⅰ～Ⅲから出土した動物遺体」『佐久市埋蔵文化財調査報告書 第240集 周防畑遺跡群 南近津遺跡Ⅲ若宮遺跡Ⅳ 宮の前遺跡Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ（第2分冊）』pp.319、326-349、単著、2017年3月、佐久市教育委員会
- 植月 学「谷村城から出土した動物遺体」『山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第311集 谷村城』、pp.183-201、単著、2017年3月、山梨県教育委員会ほか
- 植月 学「身洗沢遺跡から出土した馬歯」『山梨県埋蔵文化財センター調査報告書第310集 身洗沢遺跡』、pp.193-194、単著、2017年2月、山梨県教育委員会ほか
- 植月 学「西ヶ原貝塚XⅦ地点から出土した動物遺体」『東京都北区西ヶ原貝塚』、pp.119-164、単著、2016年12月、株式会社メデューム
- 植月 学「中世城館における動物食」『甲信越の名城を歩く—山梨編—』、p.122、単著、2016年10月、吉川弘文館

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 植月 学「Long-term shift in animal resource exploitation and demography in Jomon」The Eighth World Archaeological Congress、単独、同志社大学、2016年9月2日
- 植月 学「Horse and cattle: their changing role in Japanese history」The Eighth World Archaeological Congress、単独、同志社大学、2016年8月29日
- 植月 学・金子浩昌「東北中世城館における動物利用—青森県平川市大光寺新城跡から出土した動物遺体—」日本動物考古学会第4回大会、共同、鳥取市青谷町総合会、2016年6月18、19日
- 植月 学「Samurai horses revealed through zooarchaeological analysis」Seventh Worldwide Conference of the Society for East Asian Archaeology、Harvard University、2016年6月11日

[講演]

- 植月 学「山梨の遺跡からみた生活変遷史—動物骨が語る食生活の変化—」山梨学Ⅱ、単独、山梨県立大学、2016年12月26日
- 植月 学「食べものの考古学—ゴミから調べる昔の食生活—」環境講演会、単独、山梨県立文学館、2016年11月29日
- 植月 学「谷村城下町と近世の甲斐における動物資源利用」山梨県埋蔵文化財センターシンポジウム「甲斐の城下町を探る」、単独、山梨県立図書館、2016年10月10日
- 植月 学「縄文時代における人と哺乳類の関係」日本哺乳類学会2016年度大会公開シンポジウム「哺乳類クロニクル—日本における哺乳類相の形成史、および人間社会との関係史—」、単独、筑波大学、2016年9月25日
- 植月 学「甲州食べものの紀行—山梨県の食文化の変遷—」第21回日本給食経営管理学会研修会、単独、山梨学院短期大学、2016年9月24日



- 植月 学「歴史から振り返る山梨県と馬の関係」引退馬の余生を考える講演会（公益財団法人山梨総合研究所）、単独、山梨県立図書館、2016年9月24日
- 植月 学「食べ物の歴史～骨から調べる山梨の食文化～」平成28年度食育研修会、単独、山梨県総合教育センター、2016年8月1日
- 植月 学「甲州食べもの紀行～食を通じて地域の魅力を再発見～」平成28年度食育推進シンポジウム（山梨県）、単独、山梨県立文学館、2016年6月28日
- 植月 学「山梨の食文化 地域の魅力を食で再発見！」大学コンソーシアム、単独、健康科学大学、2016年6月16日
- 植月 学「甲府の食文化」山梨の政策課題、単独、山梨県立大学、2016年5月6日

(4)学外集中講義など

- 2016年度前期「Introduction to historical studies」中央大学文学部、2016年4月～7月
- 2016年度後期「博物館資料論」都留文科大学、2016年9月～2017年2月

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 基盤研究 (C)「日本の畜産文化成立過程の動物考古学的研究」(研究代表者) 平成27～29年度

## 上 條 信 彦

(1)現在の研究テーマ

- 東アジア先史時代の食文化・食品加工技術の研究

(2)著書、論文、その他

[著書]

- 上條信彦編『津軽海峡圏の縄文文化』日本考古学協会2016年度弘前大会実行委員会、2016年

[論文]

- 片岡太郎、上條信彦、鹿納晴尚、佐々木理「X線CT観察による北東北の縄文時代晩期の漆櫛の製作技術」『考古学と自然科学』第72号、共著、2016年、pp.29-43

[その他]

- 上條信彦編『八郎潟沿岸の低湿地遺跡』2016年、弘前大学人文社会科学部北日本考古学研究センター
- 片岡太郎・上條信彦「X線CT観察による南鴻沼遺跡出土漆櫛の内部構造」、『さいたま市遺跡調査会報告書第177集埼玉県さいたま市南鴻沼遺跡（第3分冊）』pp.299-307、2017年3月22日、さいたま市遺跡調査会

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 上條信彦、田中克典、佐々木葉月「出土イネの形態からみた歴史的遷移の検討」2016年5月、日本考古学協会第82回総会、東京学芸大学
- 片岡太郎、上條信彦、佐藤信輔、佐々木理「岩手県盛岡市萩内遺跡出土漆櫛の材質・技法研究」2016年6月、日本文化財科学会大会、奈良大学
- 上條信彦、南武志、高橋和也「イオウ同位体比分析によるアスファルトの原産地推定の試み」2016年6月、日本文化財科学会大会、奈良大学
- 上條信彦「Research on Macrobotanical Remains of the Horse Chestnuts and Manchurian Walnuts from a Waterlogged Site of the Latter Half of Jomon Period, North-Eastern Japan」2016年6月、Seventh Worldwide Conference of the SEAA, Harvard University Boston, MA, USA
- 上條信彦「縄文晩期末下台遺跡の調査成果」2016年6月、青森県考古学会総会
- 上條信彦「形態・DNA分析からみた東北アジアのイネの拡散」2016年6月、日本中国考古学会九州部会第72回例会、九州大学
- 上條信彦「稲作文化の拡散を探る」2016年7月、第2届中日民族文化比較研究学術検討会、広西大学
- 上條信彦「The Process of Accepting Rice Cultivation in Northern Japan as Seen From DNA and Rice Grain Shapes」、2016年8月、Eighth World Archaeological Congress、同志社大学
- 上條信彦「Food processing during the Middle Jomon Period in Northern Japan as seen through use-wear and starch analysis」2016年8月、Eighth World Archaeological Congress・同志社大学
- Taro KATAOKA and Nobuhiko KAMIJO「Nuts and woods processing and consumption in the late and final Jomon; Excavation of the Jomon wetland site, that is called NAKAYAMA site located in North northeast, Japan」第8回世界考古会議京都大会（WAC- 8 Kyoto）、共同、世界考古学会議、2016年8月26日

- 高橋和也, 上條信彦, 南武志, 北川路子, SAHOO Yu - Vin「硫黄同位体比分析による, 北日本に産出する原油/アスファルトの識別の試み」2016年8月, 日本分析化学会, 日本分析化学会年会・札幌
  - 上條信彦「照格荘遺跡の石器とその使用痕」2017年2月, 日本中国考古学会九州部会第74回例会・九州大学
- (4)学外集中講義など
- 2016年度前期集中講義「考古学講義 XIII」「東アジア比較考古学研究 II」九州大学、2016年6月21～25日
- (5)海外出張・研修、そのほかの海外での活動など
- アメリカ合衆国、学会発表、2016年6月8～12日
  - 中華人民共和国、学会発表、2016年7月25～29日
  - 中華人民共和国、調査、2016年9月12～17日
  - 中華人民共和国、調査、2016年11月2～8日
- (6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など
- 日本学術振興会基盤研究 (B)「冷温帯地域における稲作の歴史的展開」(研究代表者)
  - 日本学術振興会基盤研究 (B)「東アジア農耕伝播過程の植物考古学分析による実証的研究」(研究分担者)
  - 日本学術振興会基盤研究 (B)「北海道噴火湾沿岸の縄文文化の基礎的研究」(研究分担者)
  - 新学術領域研究「イネの栽培化と植物質食料資源の開発」(研究分担者)
- (7)共同研究、受託研究など
- 大阪府立弥生文化博物館「佐藤コレクション出土米の分析」
  - 古環境研究所「先史時代における資源鉱物利用戦略の解明」
- (8)学会・研究会・講演会などの開催
- [弘前大学人文社会科学部主催または共催のもの]
- 日本考古学協会2016年度弘前大会, 2016年10月15～17日
  - 特別展示「大五月女菰展」2016年10月8日～11月13日、北日本考古学研究センター展示室、五所川原市教育委員会と共催
  - 「弘前大学の考古学—弘大考古のあゆみとその成果—」2016年8月1日～10月30日、弘前大学資料館

## 片岡太郎

### (1)現在の研究テーマ

- 非破壊透視解析の開発とそれを用いた縄文漆工技術の体系化
- 水浸出土木製品の保存処理方法の開発
- 被災有機質文化財の簡便な応急処置方法の開発

### (2)著書、論文、その他

#### [論文]

- 片岡太郎, 上條信彦, 鹿納晴尚, 佐々木理『X線CT観察による北東北の縄文時代晩期の漆櫛の製作技術』『考古学と自然科学』日本文化財科学会第72巻, 共著, pp.29-43

#### [その他]

- 片岡太郎・上條信彦「X線CT観察による南鴻沼遺跡出土漆櫛の内部構造」、『さいたま市遺跡調査会報告書第177集埼玉県さいたま市南鴻沼遺跡 (第3分冊)』pp.299-307、2017年3月22日、さいたま市遺跡調査会
- 片岡太郎、村田泰輔、星野安治「X線CT観察による内部構造からみた古屋敷遺跡出土漆櫛の製作技術」、『古屋敷遺跡 (C・F・H・I区) 一般国道9号 (静間仁摩道路) 改築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書3』pp.164-168、2017年3月16日、島根県教育委員会

### (3)研究発表、講演

#### [研究発表]

- 片岡太郎、上條信彦、佐藤信輔、佐々木理「岩手県盛岡市萩内遺跡出土漆櫛の材質・技法研究」日本文化財科学会第33回大会、共同、奈良大学、2016年6月4日
- Taro KATAOKA and Nobuhiko KAMIJO「Nuts and woods processing and consumption in the late and final Jomon: Excavation of the Jomon wetland site, that is called NAKAYAMA site located in North northeast, Japan」第8回世界考古会議京都大会 (WAC-8 Kyoto)、共同、世界考古学会議、2016年8月26日
- 片岡太郎「縄文時代後晩期における漆工技術」日本考古学協会2016年度弘前大会、共同、弘前大学、2016年10月15日

### (6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 若手研究 (B) (代表)「X線CTを使った縄文時代の漆器製作技術の体系化」(代表者: 片岡太郎)、2016年4月1日～2019年



3月31日

- 基盤研究(A)(分担)「被災博物館等の汚染ガスからみた資料と環境の安定化およびその評価手法の研究」(代表者:筑波大学・松井敏也)、2014年4月1日～2019年3月31日

(7)共同研究、受託研究など

- 岩手県奥州市「奥州市大安寺留守家西墓所出土遺物の保存科学的研究」(代表者:関根達人)

## ○思想文芸講座

李 良

(1)現在の研究テーマ

- 近世東アジア知識論の研究、漢訳西学書の研究、イエズス会の教育思想研究

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 李 良「保守という概念の翻訳をめぐる」『2017国際シンポジウム「近代期東アジアにおける言語接触と交流伝播」予稿集』韓国延世大学校言語情報研究院、漢字文化圏近代語研究会、pp129-134、単著、2017年3月

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 「A・ヴァリニャーノ教育思想—東アジア伝統思想との関連において—」、東アジア交渉学の新しい歩み、神奈川県開成町、東アジア文化交渉学会、関西大学、関西大学100周年記念会館、2016年5月7日～8日
- 「イエズス会の証道(exemplum)ツールとしての文学翻訳—17世紀から18世紀前半まで—」、人間文化研究機構 広領域連携型基幹研究プロジェクト 異分野融合による「総合書物学」の構築 研究会「キリシタン文学の継承 宣教師の日本語文学」、東京都品川区大井町ホテルアワーズイン阪急 第7会議室、2016年7月28日
- 「東亜論壇2016「保守主義の再考—近現代中国の場合において—」」、京都大学地域研究統合情報センター、科研費A「東アジア域内100年間の紛争・協調の軌跡を非文字史料から読み解く」、中国華東師範大学東方言語学院「国際ワークショップ「東亜論壇2016 華東師範大学学術交流会」」、中国上海市華東師範大学中山北路キャンパス理科大楼A204、2016年9月4日
- 「保守という概念の翻訳をめぐる」、延世大学校言語情報研究院、漢字文化圏近代語研究会「2017延世大学校国際シンポジウム「近代における翻訳と文体」」、韓国延世大学校 ソウル、2017年3月24日～25日

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 人間文化研究機構・国文学研究資料館研究プロジェクト「日本と西洋との相互認識に関する総合書物学的研究：キリシタン文学の発展と継承」(Mutual Understanding between Japan and the West through Comprehensive Book-based Research: The Development and Legacy of Christian Literature in Japan)(代表者郭南燕)、研究分担者、平成26年10月～平成30年3月
- 弘前大学科研費申請獲得支援金、

(7)共同研究、受託研究など

- 「日本と西洋との相互認識に関する総合書物学的研究：キリシタン文学の発展と継承」(Mutual Understanding between Japan and the West through Comprehensive Book-based Research: The Development and Legacy of Christian Literature in Japan)(代表者郭南燕、国際日本文化研究センター准教授)、研究分担者、平成26年10月～平成30年3月
- 「比較のなかの東アジア王権論と秩序構想—王朝・国会、または宗教・儀礼—」(代表者伊藤貴之、国際日本文化研究センター教授)、研究分担者、平成28年4月～平成30年3月

今 井 正 浩

(1)現在の研究テーマ

- 西洋古典学
- 西洋古代哲学・思想史
- ヨーロッパ古典文化論
- 人体の中樞器官をめぐる論争史をとらえてみた西洋古代の人間観の展開の解明
- 精神疾患の病理をとらえてみた西洋古典古代の人間観の特質の解明

(2)著書、論文、その他

[論文]

- IMAI Masahiro: Psychopathological Arguments in the Hippocratic Treatise On the Sacred Disease, Studies in the Humanities and Social Sciences, No.1 (『人文社会科学論叢』創刊号), pp.1-13.

(3)研究発表、講演ほか

[研究発表]

- 今井正浩「アリストテレスにおける動物の発生理論とその基本問題—男女（雌雄）の性別の決定と親子間の類似という問題を中心に—」

日本科学史学会第63回年総会（2016年5月28日～29日／工学院大学〔東京都〕）

[講演コメント]

- Masahiro IMAI: Comments on the Paper given by Prof. Philip van der Eijk (Humboldt-Universität zur Berlin) : Health, Lifestyle and Responsibility in Ancient Medical and Philosophical Thought, International Forum 2016 at the Faculty of Humanities and Social Sciences, Hirosaki University, September 9, 2016.

(5)海外出張・研修

- イギリス・エクセター大学 2016年10月29日～11月6日

(6)科学研究費補助金、その他の競争的研究資金など

- 科学研究費補助金基盤研究（C）

研究課題名「精神疾患の病理を通してみた西洋古典古代の人間観の特質を解明するための実証的研究」

（研究代表者／平成28年度～平成30年度）

研究課題名「人体の中枢器官をめぐる論争史をとおしてみた西洋古代の人間観の展開に関する実証研究」（研究代表者／平成25年度～平成28年度）

(8)学会・研究会・講演会などの開催

- International Forum 2016 at the Faculty of Humanities and Social Sciences, Hirosaki University（弘前大学人文社会科学部国際化フォーラム2016）2016年9月6日

## 木村 純二

(1)現在の研究テーマ

- 和辻哲郎の倫理思想
- 伊藤仁斎の倫理思想

(2)著書、論文、その他

[著書]

- 木村純二「折口信夫—いきどほる心」単著、2016年11月、講談社、全301頁

[論文]

- 木村純二「日本における倫理学の基礎的問題—和辻哲郎・本居宣長における「知」の把握を手掛かりに—」『玉川大学人文科学研究センター年報 Humanitas』第8号、115～123頁、玉川大学学術研究所、単著、2017年3月

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 「日本における倫理学の基礎的問題—和辻哲郎・本居宣長における「知」の把握を手掛かりに—」, 公開シンポジウム「倫理の基礎をめぐって」, 玉川大学, 2016年6月4日

[講演]

- 「現代社会における「倫理」」, 東北税理士会研修, 弘前大学, 2016年9月5日

## 泉谷 安規

(1)現在の研究テーマ

- ジョルジュ・バタイユ、シュルレアリスム

## 横 地 徳 廣

### (2)著書、論文、その他

#### [著書]

- 持田陸、横地徳廣「戦うことに意味はあるのか—倫理学的横断への試み—（共編著）」共著、2017年3月、弘前大学出版会

#### [論文]

- 横地徳廣「アイヒマン論・再考—「精神の生」の観点から—」『日本比較文化学会九州支部編『比較文化研究』』122号、単著、2017年3月

### (3)研究発表、講演

#### [研究発表]

- 横地徳廣「レプリカントの倫理学？」第38回日本比較文化学会全国大会、2016年度日本比較文化学会国際学術大会、2016年5月21日、弘前学院大学
- 横地徳廣「『戦争試論』について—地球のサイバネティクス？—」東北アーレント研究会、2017年2月23日
- 横地徳廣「ハイデガーと分析美学—恐怖について—」日本比較文化学会、東北支部研究会、2017年3月10日

## 土 井 雅 之

### (1)現在の研究テーマ

- イギリス文学・文化、シェイクスピアとその時代

### (2)著書、論文、その他

#### [論文]

- 土井雅之「材源との比較から読み解くラム姉妹『シェイクスピア物語』」『東北ロマン主義研究』第3号、東北ロマン主義文学・文化研究会、pp.1-18、単著、2016年12月
- 土井雅之「『あらし』から浮かび上がる西地中海像」『Shakespeare Journal』第3号、日本シェイクスピア協会、pp.23-35、単著、2017年3月

### (3)研究発表、講演

#### [研究発表]

- 土井雅之「シェイクスピア作品における地中海世界—『テンペスト』を中心に」、学習院大学中野春夫教授科研費プロジェクト「16世紀イングランドにおける浮浪者の表象研究」主催第6回研究会、単独、学習院大学、2016年6月4日
- 土井雅之「『テンペスト』における北アフリカ表象」第25回エリザベス朝研究会、単独、慶應義塾大学、2016年9月10日
- 土井雅之「女性と国家—『ヘンリー六世』三部作における女性表象」第27回エリザベス朝研究会、単独、慶應義塾大学、2017年3月25日

### (4)学外集中講義など

- ひろだいなビゲート・キャラバン in 五所川原高校「学部説明・模擬講義」、青森県立五所川原高校、2016年9月30日
- 弘前大学見学会「学部説明・施設案内」、青森市立三内中学校、2016年11月1日

## 尾 崎 名 津 子

### (1)現在の研究テーマ

- 日本近現代文学、出版メディア、検閲研究

### (2)著書、論文、その他

#### [著書]

- 尾崎名津子『織田作之助論 〈大阪〉表象という戦略』、単著、2016年6月、和泉書院、全368頁

#### [論文]

- 尾崎名津子「変奏される〈悲しみ〉—坂口安吾の大阪観」『坂口安吾研究』第3号、pp.1-17、単著、2017年3月

#### [その他、注・解題]

- 植田康夫・紅野謙介・十重田裕一編『岩波茂雄文集』第1巻、pp.332-397、共著、2017年1月、岩波書店
- 植田康夫・紅野謙介・十重田裕一編『岩波茂雄文集』第2巻、pp.278-327、共著、2017年2月、岩波書店
- 植田康夫・紅野謙介・十重田裕一編『岩波茂雄文集』第3巻、pp.220-245、共著、2017年3月、岩波書店

#### [その他、作問]

- 十重田裕一・Michael Bourdaghs監修、尾崎名津子・神田祥子・塩野加織作問「夏目漱石×岩波書店 漱石検定50問—夏目

漱石没後100年特集」、<https://www.iwanami.co.jp/moreinfo/Soseki/top5.html>、2016年11月、岩波書店

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 十重田裕一、塩野加織、尾崎名津子「岩波茂雄と津田左右吉」国際シンポジウム「人文学の再建とテキストの読み方—津田左右吉をめぐる—」、共同、早稲田大学総合人文科学研究センター、2017年1月14日

(6)科学研究費補助金、その他の競争的研究資金など

- 挑戦的萌芽研究「岩波書店における検閲と文学の総合的研究」(研究分担者) 2016～2018年度

(8)学会・研究会・講演会などの開催

[それ以外のもの]

- スーパーグローバル大学創成支援事業「国際日本学拠点」国際シンポジウム「文化生産者としての〈作者〉」、早稲田大学、2016年7月26日

## ○コミュニケーション講座

### 山 本 秀 樹

(1)現在の研究テーマ

- 地理情報システム (GIS) による世界諸言語の言語類型地理論的研究、世界諸言語の言語構造地図の作製および分析、言語類型論と言語普遍性研究、人類と言語の系統に関する研究

(2)著書、論文、その他

[著書]

- 山本秀樹『地理情報システムによる世界諸言語の格標体系の言語類型地理論的研究』、単著、2017年3月、エイム

(6)科学研究費補助金、その他の競争的研究資金など

- 基盤研究 (C)「地理情報システムによる世界諸言語の比較表現の言語類型地理論的研究」(研究代表者)、平成28～30年度
- 基盤研究 (C)「地理情報システムによる世界諸言語の格標体系の言語類型地理論的研究」(研究代表者)、平成25～28年度 (28年度補助期事業期間の延長：平成28年3月22日承認)

### 木 村 宣 美

(1)現在の研究テーマ

- 英語学 (統語論・意味論)：  
右方移動現象と併合/線形化のメカニズム；述語 (動詞句) 削除に対する2種類のbeに基づく分析；文体的倒置/there構文/as挿入節/比較節の節構造

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 木村宣美「動詞句削除：2種類のbeに基づく分析」『日本言語学会第152回大会予稿集』186-191頁、単著、平成28 (2016) 年6月
- 木村宣美「述語句削除と法助動詞 must の陳述緩和的・根源的意味」Ars Linguistica (Linguistic Studies of Shizuoka) vol. 23, 53-70頁、単著、平成28 (2016) 年12月

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 木村宣美「動詞句削除：2種類のbeに基づく分析」日本言語学会第152回大会、単独、慶應義塾大学三田キャンパス、平成28 (2016) 年6月25日
- 木村宣美「連結詞 be の語彙特性に基づく動詞句削除分析」日本中部言語学会第63回定例研究会、単独、静岡県立大学、平成28 (2016) 年12月10日

(4)学外集中講義など

- 出前講義「英語学入門：情報構造と語順—どういう時に受動態で表現すれば良いの?—」青森県立青森南高等学校、平成28 (2016) 年9月16日

(5)海外出張・研修、その他の海外での活動など

- The 18th Seoul International Conference on Generative Grammar (SICOGG 18), Sogang University, Seoul, Korea,

August 2-5, 2016 (平成28 (2016) 年 8月1日 - 6日)

●GLOW in Asia 2017, National University of Singapore, Singapore, February 20-22, 2017(平成29 (2017) 年 2月18日 -22日)  
(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 基盤研究 (C)「右方移動現象の分析に基づく併合と感覚運動体系における線形化のメカニズムの解明」(研究代表者) 平成26 (2014) 年度-平成28 (2016) 年度

## 渡 辺 麻里子

(1)現在の研究テーマ

- 中世文学・説話文学・仏教文学、書誌学、天台談義書、大藏経(明版・鉄眼版)、津軽の宗教と文化、藩校資料・大名文庫

(2)著書、論文、その他

[著書]

- 赤瀬信吾、三村晃功、佐藤愛弓、本井牧子、渡辺麻里子他『叡山文庫毘沙門堂識語集成』、共著、2016年10月、pp.1-162、叡山文庫調査会
- 渡辺麻里子『東奥義塾高等学校所蔵旧弘前藩古典籍調査集録第三集』、監修、2017年3月、pp.145-155、弘前大学人文社会科学部・弘前藩藩校資料調査プロジェクトチーム

[論文]

- 渡辺麻里子「談義所における聖教と談義書の形成」、単著、竹林舎、『学芸と文芸』(生活と文化の歴史学9)、査読無、459~482頁、2016年8月
- 渡辺麻里子「廬山寺談『三大部見聞述聞』の享受に関する一考察」一付・〔翻刻〕叡山文庫戒光院蔵『三大部述聞見聞目録』一、単著、弘前大学人文社会科学部『人文社会科学論叢』創刊号、198~222頁、2016年8月
- 渡辺麻里子「弘前市立弘前図書館八木橋文庫蔵『稽古館蔵書目録』と東奥義塾高等学校図書館蔵本について」、弘前藩藩校資料調査プロジェクトチーム『東奥義塾高等学校所蔵 旧弘前藩古典籍調査集録』第三集、弘前大学人文社会科学部、平成29年3月、132~141頁

[その他]

- 渡辺麻里子「隣松寺蔵『久祥院殿写経』(仮名書き法華経)について—【翻刻】隣松寺蔵『久祥院殿写経』第二冊(譬喩品第三・信解品第四)—」、単著、『弘前大学国語国文学』38、弘前大学国語国文学会、80~107頁、2017年3月
- 渡辺麻里子〔解題〕「題林愚抄」「養生歌八十一首」「後拾遺和歌集」「松の栄」、弘前藩藩校資料調査プロジェクトチーム『東奥義塾高等学校所蔵 旧弘前藩古典籍調査集録』第三集、弘前大学人文社会科学部、平成29年3月、99~119頁
- 渡辺麻里子「中世仏教文学研究の立場から」、津軽の年占行事『七日堂祭』を考える、弘前大学人文社会科学部民俗学研究室、平成29年3月、39~42頁
- 秋田テレビ「人物評伝—了翁禅師—」監修・協力、2016年11月放送

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 渡辺麻里子「寺院資料調査の意義および記家文字資料調査の課題について」、「室町〜江戸期における写本と版本の関係についての総合的研究」研究会、平成28年10月28日、慶應大学
- 渡辺麻里子「寺院資料調査の意義と記家文字資料」、国際日本文化研究センター共同研究「投企する古典性—視覚／大衆／現代—」平成二十八年度・第三回共同研究会、平成28年12月3日、慶應大学
- 渡辺麻里子「弘前図書館蔵『稽古館目録』と東奥義塾図書館蔵本」、2016年度東奥義塾高校所蔵旧弘前藩藩校稽古館資料調査報告会、(於)弘前大学人文学部多目的ホール、2016年12月18日

[講演]

- 渡辺麻里子「お殿様と和歌—弘前藩主の教養と学問を知る—」、(於)弘前学院大学、2016年7月16日
- 渡辺麻里子「百人一首と近江—「おほけなく」「めぐり逢ひて」「これやこの」の和歌と説話—」、フォーラム「百人一首からみた近江」、(於)総本山三井寺事務所、2017年2月18日

(4)学外集中講義など

- ゼミ運営に関わる教員研修「ゼミナールの運営について」、(於)青森県立青森高校、2016年5月9日
- 大学模擬授業「「くずし字」の不思議—ビックリ!昔話の世界を楽しもう—」、(於)千葉県立匝瑳高等学校、2016年11月10日
- 特別公開授業・大成学区まなびい講座「昔話や物語の世界—『くずし字』の不思議ワールド体験—」、2016年7月1日、(於)弘前市立大成小学校



- 特別公開授業・松原学区ふれあい講座「昔話や物語の世界—『くずし字』の不思議ワールド体験」, 2016年7月1日, (於) 弘前市立松原小学校
  - 特別公開授業・文京学区ふれあい講座「昔話や物語の世界—『くずし字』の不思議ワールド体験—」, 2016年7月8日, (於) 弘前市立文京小学校
  - 特別公開授業・三大学区生涯学習講座「昔話や物語の世界—『くずし字』の不思議ワールド体験」, 2016年7月15日, (於) 弘前市立三大小学校
  - 弘前地区小学校学校図書館教育研究会一日研修会「提案授業「昔話の世界」」, (於) 弘前市立堀越小学校, 2016年10月12日
  - 弘前地区小学校学校図書館教育研究会一日研修会講演「読書への誘い—くずし字と昔話の世界—」, (於) 弘前市立堀越小学校, 2016年10月12日
- (6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など
- 挑戦的萌芽研究「中世仏教資料における記家文字表記体系の解明」(代表者) 平成27年度～平成29年度
  - 基盤研究 (A) (一般)「宮内庁書陵部所蔵道藏を中心とする明版道藏の調査と研究」(分担者) 平成26～30年度
- (7)共同研究、受託研究など
- 国際日本文化研究センター「投企する古典性—視覚／大衆／現代」(研究分担者) 平成28年度～平成31年度
- (8)学会・研究会・講演会などの開催
- [弘前大学人文学部主催または共催のもの]
- [弘前大学人文学部 国際公開講座2016「日本を知り、世界を知る」「海をこえて世界とつながる人文学」]2016年11月3日(火・文化の日)、(於) 弘前大学人文社会科学部棟4階多目的ホール
  - 「2016年度東奥義塾高校所蔵 旧弘前藩藩校稽古館資料調査報告会」2016年12月18日(日)、(於) 弘前大学人文社会科学部4階多目的ホール
  - [2016年度・卒研プロジェクト]「卒研を書くために！—卒業研究発表会&卒研指導勉強会—」2017年2月8日(水)、(於) 弘前大学総合教育棟306

## 奈 蔵 正 之

### (2)著書、論文、その他

#### [論文]

- 奈蔵正之「カミュ『誤解』の執筆に隠された内的動因」『人文社会科学論叢』創刊号、弘前大学人文社会科学部、pp.15-82、単著、2016年8月
- 奈蔵正之「カミュ「作品系列」構想の起源と変遷」『人文社会科学論叢』2号、弘前大学人文社会科学部、pp.1-59、単著、2017年2月

## 熊 野 真規子

### (1)現在の研究テーマ

- 外国語教育(フランス語教育、複言語・複文化教育、サービスマーケティング)

### (2)著書、論文、その他

#### [その他、報告]

- 熊野真規子「『弘前×フランス』プロジェクト：『まちをキャンパスに！』(複言語・複文化教育プロジェクト〔フランス語モデル〕)」、『地域未来創生センタージャーナル』第3号、pp.41-45

### (3)研究発表、講演

#### [研究発表]

- 熊野真規子「『弘前×フランス』プロジェクト報告」、日本フランス語教育学会2016年度春季大会、単独、早稲田大学早稲田キャンパス、2016年5月27日
- 熊野真規子「2016年度『弘前×フランス』プロジェクトを振り返る」、Rencontres Pédagogiques du Kansai 2017 (第31回関西フランス語教育研究会)、単独、上田安子服飾専門学校、2017年3月27日

#### [講演 (シンポジウム)]

- 熊野真規子、Ghislain MOUTON、釣 馨「地域とともに生きるフランス語」日本フランス語教育学会秋季大会、共同、金沢大学 角間キャンパス、2016年10月15日

### (4)学外集中講義など

- 放課後子ども教室「フランスを感じてみよう！」弘前市立第三大成小学校、2016年9月6日、9月13日

(5)海外出張・研修、そのほかの海外での活動など

- フランス共和国/ボルドー、「弘前×ボルドー」プロジェクト：学生企業人協働シティ・プロモーション事業（平成28年度弘前大学グローバル人材育成事業学生市民等協働プログラム）、2016年10月20日～28日

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 挑戦的萌芽「社会実験的アプローチによる地方都市の複言語・複文化教育モデル構築と地域活性化検証」（研究代表者）、平成27年度～平成29年度

(8)学会・研究会・講演会などの開催

[弘前大学人文社会科学部主催または共催のもの]

「まちなかトークセッション：『弘前×りんご×フランス』 vol.2」、土手町コミュニティパーク、2016年9月26日

## 小野寺 進

(1)現在の研究テーマ

- 英文学、イギリス文化論、物語理論、英語多読、英語教育

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 小野寺進「ジェーン・オースティンと異質物語世界の＜私＞」、第9回東北ロマン主義文学・文化研究会、単独、東北大学、2016年12月3日

(5)海外出張・研修、そのほかの海外での活動など

- 海外学生PBLプログラム（「弘前×ボルドー」プロジェクト）平成28年10月20日～10月28日、ボルドー、フランス共和国
- リチャード・デイ博士との研究協力打合せ、平成28年9月6日～9月10日（ハワイ大学マノア校）  
ハワイ州、アメリカ合衆国

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 挑戦的萌芽研究「授業における英語多読プログラム開発とその評価に関する研究」（研究代表者）平成28年度～31年度

## 南 修 平

(1)現在の研究テーマ

- アメリカ現代史、ニューヨークの歴史と文化、労働民衆史、アメリカ愛国主義研究

(2)著書、論文、その他

[著書]

- 南修平「労働史から見た移民コミュニティ・オマージュを乗り越えて」貴堂嘉之、兼子歩編『「ヘイト」の時代のアメリカ史』pp.163-184、共著、2017年2月、彩流社

[論文]

- Shuhe Minami “In Search of New Direction: Labor History in an ‘Era of Trump’,” *Rikkyo American Studies* 39, pp.183-203, single, March 2017.

[その他]

- 南修平「地球説畧 刊二冊（700414）」、弘前大学人文社会科学部地域未来創生センター藩校資料調査プロジェクトチーム『東奥義塾高等学校所蔵 旧弘前藩古典書籍調査集録 第三集』pp.120-124、2017年3月、弘前大学人文社会科学部地域未来創生センター

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 南修平「高橋和雅「移ろうストリートの風景と人々—シカゴのニアウエストサイドの流動性の中で—」に対するコメント」2016年度専修大学歴史学会総会・大会、単独、専修大学神田キャンパス、2016年6月25日
- Shuhe Minami, “The Life and Works of Debra E. Bernhardt: Beyond New Labor History,” The 51st International Conference Organized by The American Studies Association of Korea, single, Hankuk University of Foreign Studies, Yongin, South Korea, Sept. 30, 2016.
- 南修平「『民衆』を描くということ—アメリカ労働史の歩みとその課題」2016年度アメリカ学会清水博賞受賞記念研究会、単独、立教大学池袋キャンパス、2016年12月22日
- 南修平「第2次世界大戦前後におけるニューヨーク都市労働者の政治文化—アメリカニズムとの関連から」学習院大学人文科学研究所共同研究プロジェクト「現代都市にかんする比較史的研究—欧米諸国を中心に」2016年度第3回研究会、単独、

青山学院大学青山キャンパス、2017年3月4日

(4)学外集中講義など

- 2016年度りんご王国こうぎょくカレッジ「巨大都市ニューヨークの誕生—摩天楼の頂とその下に」  
(2016年10月23、30日放送)

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 平成28年度弘前大学若手・新任研究者支援事業「第2次世界大戦後のニューヨーク港湾地区における労働者コミュニティの変容」(研究代表者)

(7)共同研究、受託研究など

[それ以外のもの]

- アメリカ学会第21回清水博賞、2016年6月5日

(8)学会・研究会・講演会などの開催

[弘前大学人文社会科学部主催または共催のもの]

- 地域未来創生塾第4回「巨大都市ニューヨークの誕生—摩天楼の頂とその下に」弘前文化センター、2016年10月26日、
- 2016年度旧弘前藩藩校稽古館資料調査報告会、弘前大学人文社会科学部多目的ホール、2016年12月18日

## 堀 智 弘

(1)現在の研究テーマ

- 十九世紀アメリカ社会の世俗化と物語形式の発展についての研究、奴隷制文学

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 堀智弘「アメリカの奴隷の「栄えある復活」—一回心物語の書き換えとしての『フレデリック・ダグラスの生涯の物語』」、『黒人研究』第86号、pp.12-24、単著、2017年3月

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 堀智弘「ProvidenceからProbabilityへ—*Narrative of the Life of Frederick Douglass* (1845)を中心に」日本アメリカ文学会東北支部例会、単独、東北大学、2017年3月4日

[講演]

- 堀智弘「戦争とパルプ ～ 映画作家サミュエル・フラー」映画上映団体「大地の眼」、共同、十和田市Café & Bar Carbs、2016年7月31日

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 基盤研究 (C)「十九世紀米国社会の世俗化との関連からみる、奴隷物語の小説化過程の歴史的研究」(研究代表者) 平成26～28年度
- 基盤研究 (C)「合衆国における貧乏白人の文学的表象の研究」(研究分担者) 平成26～28年度

## JANSON MICHEL

(1)現在の研究テーマ

- フランス語・フランス語教育学

(4)学外集中講義など

①平成28年7月31日～8月4日

集中講義 フランス語会話&実践 秋田県秋田市 秋田大学・教育文化部

②平成29年2月12日～16日

集中講義 フランス語会話&実践 秋田県秋田市 秋田大学・教育文化部

(5)海外出張・研修、そのほかの海外での活動など

- 平成29年3月15日～20日

海外派遣教育プログラム・フランス国 ボルドー市 ボルドーモンテーニュ大学

## 楊 天 曦

## 川 瀬 卓

### (1)現在の研究テーマ

- 日本語史（語彙史・文法史）、副詞の歴史的研究、配慮表現の歴史的研究、地方議会会議録を用いた社会言語学的研究

### (2)著書、論文、その他

#### [その他]

- 川瀬卓「〔書評〕鳴海伸一著『日本語における漢語の変容の研究—副詞化を中心として—』『日本語の研究』第12巻3号、pp.141-148、単著、2016年7月、日本語学会
- 川瀬卓「庭訓往来、永壽庭訓往来絵抄解」弘前大学地域未来創生センター藩校資料調査プロジェクト 東奥義塾高等学校所蔵旧弘前藩古典籍調査集録 第三集、pp.82-88、単著、2017年3月、弘前藩藩校資料調査プロジェクトチーム

### (3)研究発表、講演

#### [研究発表]

- 川瀬卓「前置き表現から見た行為指示表現の歴史—「よかったら」類を中心に—」日本語学会2016年度秋季大会、単独、山形大学、2016年10月29日
- 川瀬卓「東奥義塾高校図書館蔵日本語関係資料について」2016年度旧弘前藩藩校稽古館資料調査報告会、単独、弘前大学、2016年12月18日
- 川瀬卓「不定語と助詞「ぞ」「か」「やら」の結びつきの東西差—落語SPレコードを中心に—」第268回筑紫日本語研究会、単独、九州大学、2016年12月28日
- 川瀬卓「副詞「ひょっと」の史的展開」第269回筑紫日本語研究会、単独、熊本大学、2017年3月30日

### (6)科学研究費補助金、その他の競争的研究資金など

- 基盤研究（C）「副詞と前置き表現に注目した配慮表現の歴史的研究」（研究代表者）平成28～30年度

### (7)共同研究、受託研究など

- 人間文化研究機構国立国語研究所共同研究プロジェクト（領域指定型）「議会会議録を活用した日本語のスタイル変異研究」（プロジェクトメンバー（代表者：二階堂整））平成28～31年度

## ○国際社会講座

## PHILIPS JOHN EDWARD

### (2)著書、論文、その他

#### [著書]

- John Edward Philips 「black africa's largest islamic kingdom before colonialism」、全159頁、単著、2017年7月、new world african press

## 齋 藤 義 彦

### (1)現在の研究テーマ

- 現代ドイツ、ヨーロッパ文化

### (2)著書、論文、その他

#### [その他] 翻訳

- 『ドイツ連邦議会における連邦首相アンゲラ・メルケル博士の2017年度予算法説明演説 2016年9月7日ベルリン』『人文社会科学論叢』（社会科学篇）第2号、2017年2月

## 城 本 る み

### (1)現在の研究テーマ

- ハンセン病問題、中国・台湾の高齢者福祉

### (6)科学研究費補助金、その他の競争的研究資金など

- 科学研究費補助金 基盤（C）「台湾の先行事例に基づくハンセン病療養所の転用可能性に関する実証研究」（代表）2016～2018年度

## 荷 見 守 義

### (1)現在の研究テーマ

- 中国明代史・東アジア近世史

### (2)著書、論文、その他

#### [著書]

- 荷見守義「永楽帝 明朝第二の創業者」、単著、全106頁、2016年7月、山川出版社
- 川越泰博 荷見守義 他「様々な変乱の中国史」、共著、pp.223-263、汲古書院

#### [論文]

- 荷見守義「孫承宗と明朝档案」『人文社会科学論叢—人文科学編』創刊号、pp.27-42、単著、2016年8月
- 荷見守義「明代都司掌印官の基礎的考察：遼東都司の場合」『（中央大学人文科学研究所）人文研紀要』第85号、pp.115-150、単著、2016年9月

#### [その他]

- 荷見守義「明文奇賞」『弘前大学地域未来創生センター藩校資料調査プロジェクト 東奥義塾高等学校所蔵旧弘前藩古典籍調査集録』第三集、pp.61-64、単著、2017年3月

### (4)学外集中講義など

- 北東北三大学単位互換 岩手大学夏期集中講義 教養教育科目「歴史・地理～歴史への誘い～」  
2016年9月12日～16日 岩手大学教育学部

### (6)科学研究費補助金、その他の競争的研究資金など

- 科学研究費補助金 基盤（C）「明代中国における審判・軍功評価事例の集積による辺疆統御様態の解明」（代表）2014～2017年度
- 科学研究費補助金 基盤（A）「近代移行期の港市と内陸後背地の関係に見る自然・世界・社会観の変容」（分担）2014～2017年度

## 林 明

### (1)現在の研究テーマ

- ガンディー、サルボダヤ運動、スリランカの民族問題

### (2)著書、論文、その他

#### [論文]

- Thomas Weber and Akira Hayashi「Mahatma Gandhi: The Japanese Connection」『Gandhi Marg』第37巻3号&4号、pp.407-433、共著、2016年4月、Gandhi Peace Foundation

#### [その他]

- 林明「ガンディー 「非暴力不服従」をとこなえたインド独立の父」『世界の偉人1』、pp.129-158、監修、2016年9月、朝日新聞出版

## 澤 田 真 一

### (1)現在の研究テーマ

- ニュージーランド文学、マオリ文学、ポストコロニアル文学

### (2)著書、論文、その他

#### [著書]

- 澤田真一、三神和子、加藤めぐみ、サワダハンナジョイ「オーストラリア・ニュージーランド文学論集」、共著、pp.225-250、彩流社

### (3)研究発表、講演

#### [研究発表]

- 澤田真一「ニュージーランドから学ぶ共生の作法」弘前大学人文社会科学部 国際公開講座2016、単独、弘前大学、2016年11月

### (4)学外集中講義など

- 澤田真一「英語とコミュニケーション」教員免許状更新講習 弘前大学、2016年7月16日
- 澤田真一「学生よ、世界をめざせ！海外留学と国際理解」オープンキャンパス 弘前大学、2016年8月



- 澤田真一「楽しい英語コミュニケーション」放送大学 青森学習センター、2016年10月29, 30日
- (5)海外出張・研修、そのほかの海外での活動など
  - 海外研修 ニュージーランド：オークランド、ウェリントン、クライストチャーチ、2016年9月
- (6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など
  - 基盤研究 (C)「ニュージーランド文学における共生を鍵とした文化的対話の弁証法」(研究代表者) 平成26～28年度
  - 基盤研究 (C)「ニュージーランドの反核芸術に用いられた広島イメージ群」(研究分担者) 平成27～29年度

## FUHRT VOLKER MICHAEL

- (1)現在の研究テーマ
  - 日本と東アジアにおける歴史認識、ナショナリズム、ポピュリズム、平和運動

## 中 村 武 司

- (1)現在の研究テーマ
  - 西洋史、イギリス史・イギリス帝国史、近代ヨーロッパ史
- (2)著書、論文、その他
  - [著書]
    - 中村武司 (川成 洋編著)「イギリスの歴史を知るための50章」、pp.204-209、共著、2016年12月、明石書店
  - [論文]
    - 中村武司「ネルソン提督の再来?—ナポレオン戦争時代のイギリス海軍の「神話」とコクリン卿」『人文社会科学論叢—人文科学篇』創刊号、pp.83-102、2016年8月
  - [その他]
    - 中村武司「2015年の歴史学界—回顧と展望 (ヨーロッパ・近代イギリス・後半部)」『史学雑誌』125巻5号、pp.341-344、史学会
- (3)研究発表、講演
  - [研究発表]
    - 中村武司「地方国立大学の歴史教育の現状と課題—弘前大学の事例から」、高大連携歴史教育研究会第3・4・5部会合同研究会、単独、2016年6月25日
    - 中村武司「〈合評会・コメント〉青木康編著『イギリス近世・近代史と議会制統治』(吉田書店、2015年)」、近世イギリス史研究会・イギリス革命史研究会特別例会、単独、2016年7月23日
  - [講演]
    - 中村武司「近世のアジアとヨーロッパ—東インド会社を中心に」、社会科部会歴史分科会高大連携講座《近世のアジアをどのように学ぶか2》、単独、2016年8月2日
- (6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など
  - 若手研究 (B)「19世紀イギリスの改革運動に関する政治文化史研究: 大西洋革命との関連から」(研究代表者)、平成26～28年度

## 武 井 紀 子

- (1)現在の研究テーマ
  - 古代日本地方制度研究、出土文字資料研究、日唐律令制比較研究
- (2)著書、論文、その他
  - [書評]
    - 武井紀子「北東北古代集落遺跡研究会編『九～一一世紀の土器編年構築と集落遺跡の特質からみた、北東北世界の実態的研究』、『日本歴史』第818号、pp.95-97、単著、2016年7月
  - [その他]
    - 武井紀子「禁秘新朝裁許律」「武家諸法度」「平成二十八年度東奥義塾高校図書館蔵藩校資料調査成果報告」『弘前大学地域未来創生センター藩校資料調査プロジェクト 東奥義塾高等学校所蔵旧弘前藩古典籍調査集録』第三集、pp.65-71、pp.142-144、単著、2017年3月

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 武井紀子「シンポジウム—東アジアの中の日本文化—奈良平安時代を中心に コメント」、第61回国際東方学会議、単独、日本教育会館、2016年5月20日

[講演]

- 武井紀子「古代東北の文字文化をさぐる」、弘前大学人文社会科学部 国際公開講座2016「日本を知り、世界を知る」、単独、弘前大学、2016年11月3日

[調査報告]

- 武井紀子「東奥義塾高校図書館蔵近世法律関係資料について」、2016年度旧弘前藩藩校稽古館資料調査報告会、単独、弘前大学、2016年12月18日

(4)学外集中講義など

- 弘大ナビゲート・キャラバンin弘前南高等学校「七夕の歴史—歴史学からみる年中行事—」、弘前南高等学校、2016年7月7日、
- 弘大ナビゲート・キャラバンin青森南高等学校「文字はいつから使われはじめたのか?—青森県域における文字の登場—」、青森南高等学校、2016年10月27日
- 地域未来創生塾「本を集める、人を育てる」、弘前中央公民館、2016年12月14日

(5)海外出張・研修、そのほかの海外での活動など

- 台湾調査、科学研究費補助金・基盤研究B「東アジアにおける礼・儀礼・支配構造の比較史的研究—唐宋変革期の中国・朝鮮と日本—」(研究代表者:古瀬奈津子)にかかる調査活動、2016年9月19日~23日

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 科学研究費補助金・若手研究B「古代倉庫と国家支配構造に関する基礎的研究」平成27年度~平成29年度、研究代表者
- 科学研究費補助金・基盤B日本史、「律令制的人民支配の総合的研究—日唐宋令の比較を中心に—」(研究代表者:大津透)、平成25年~平成28年、連携研究者

(7)共同研究、受託研究など

- 東京大学史料編纂所 共同研究課題「平安時代基本典籍・記録類の史料学的再検討」(代表:山口英男)、共同研究員、2016年度

(8)学会・研究会・講演会などの開催

[弘前大学人文社会科学部主催または共催のもの]

- 弘前大学人文社会科学部 国際公開講座2016「日本を知り、世界を知る」弘前大学、2016年11月3日
- 弘前大学地域未来創生センター藩校資料調査プロジェクト「東奥義塾高等学校所蔵旧弘前藩校稽古館資料調査報告会」、弘前大学、2016年12月18日

[それ以外のもの]

- 「平成28年度弘前大学国史研究会大会」、弘前大学国史研究会、2016年9月17日

## 亀 谷 学

(1)現在の研究テーマ

- 初期イスラーム時代史、イスラーム世界における政治と宗教、イスラーム世界における驚異と古代

(2)著書、論文、その他

[著書]

- 池田嘉郎, 上野慎也, 村上衛, 森本一夫 他『名著で読む世界史120』、分担執筆、2016年11月、山川出版社
- 弘前藩藩校資料調査プロジェクトチーム『東奥義塾高等学校所蔵旧弘前藩古典籍調査集録 第三集』、分担執筆、2017年3月、弘前大学人文社会科学部・弘前大学地域未来創生センター

[論文]

- 亀谷学「初期イスラーム時代における政治的コミュニケーションの構造とその変化」『歴史学研究』950号、pp.164-173、単著、2016年10月
- 亀谷学「西暦7~13世紀ファイユーム研究のために:文書と環境からのアプローチ」『イスラーム地域研究ジャーナル』9、pp.45-55、単著、2017年3月

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 亀谷学「初期イスラーム時代における政治的コミュニケーションの構造とその変化」2016年度歴史学研究会大会、単独、明治大学駿河台キャンパス、2016年5月29日
- 亀谷学「中世イスラーム世界における系譜の地理学と古代」公開研究会「中世イスラーム世界における複数の「古代」とその統合」、単独、筑波大学東京キャンパス、2017年1月29日

[講演]

- 亀谷学「中世イスラーム世界における複数の古代の継承と統合」公開シンポジウム「西アジア文明学の創出2：古代西アジア文明が現代に伝えること」、池袋サンシャインシティ文化会館、2017年3月3-4日

(5)海外出張・研修、そのほかの海外での活動など

- インド、アラビア語・ペルシア語写本調査、2016年11月5日～10日
- モロッコ・スペイン、イスラーム期の文書・貨幣調査、2016年12月20日～2017年1月7日

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 新学術領域研究（研究領域提案型）・公募研究「中世イスラーム世界における「古代」の継承と創造」（研究代表者）2015～2016年度
- 基盤研究（A）「前近代ユーラシア西部における貨幣と流通のシステムの構造と展開」（研究分担者）2016～2019年度

(8)学会・研究会・講演会などの開催

[それ以外のもの]

- 公開研究会「中世イスラーム世界における複数の「古代」とその統合」、筑波大学東京キャンパス、2017年1月29日

## ○情報行動講座

### 奥 野 浩 子

(1)現在の研究テーマ

- 動詞の意味構造
- 日本語と英語と韓国語の対照

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 奥野 浩子「非下位範疇化名詞句を伴う結果構文の成立条件」、『言語をめぐるX章—言語を考える、言語を教える、言語で考える—』埼玉大学教養学部・人文社会科学部研究科、pp.210-222、単著、2017年2月
- 奥野 浩子「日本語を意識した外国語発音指導」、『<不思議>に満ちたことばの世界（上）』開拓社、pp.171-175、単著、2017年3月

(5)海外出張・研修、そのほかの海外での活動など

- 韓国、共同研究打ち合わせ、2017年3月15日～3月22日

### 佐 藤 和 之

(1)現在の研究テーマ

- 地域社会の言語変容研究

(2)著書、論文、その他

[著書]

- さくさく作成「やさしい日本語」を使った緊急連絡のための案文集2  
～災害時における学校や自治体からのお知らせ編～  
弘前大学人文学部社会言語学研究室
- 生活情報誌作成のための「やさしい日本語」ガイドライン  
弘前大学人文学部社会言語学研究室

[論文]

- 「外国人住民のための「やさしい日本語」」『マッセO S A K A研究紀要』第19号、大阪府市町村振興協会、pp.65-80、単著、2016年4月

- 「山形県鶴岡市方言におけるテンスとアスペクト」『日本方言研究会発表予稿集』第102号、日本方言研究会、2016年5月
- 「外国人被災者に情報を伝える「やさしい日本語」表現」『日本語学会原稿集』日本語学会、単著、2016年5月
- 「災害下の外国人住民に情報を迅速に伝える「やさしい日本語」」『ガバナンス』第182号、ぎょうせい、pp.46-51、単著、2016年6月
- 「ユニバーサルデザイン：外国人の安全を守る「やさしい日本語」」『安全衛生のひろば』中央労働災害防止協会、単著、2016年9月
- 「日本語らしさとわかりやすい日本語『日本語の研究』」『日本語学』第12巻第4号、pp.204-210、単著、2016年9月
- 「外国人被災者の負担を減らす「やさしい日本語」」『わかりやすい日本語』、単著、2016年10月
- 「方言を介した地域支援活動・「やさしい日本語」の取り組みから」『日本方言研究会発表原稿集』第103号、pp.75-80、単著、2016年10月
- 「「やさしい日本語」研究2016の研究成果と社会的評価」『地域未来創生センタージャーナル』第3巻、地域未来創生センター、pp.51-64、単著、2017年2月

[その他]

- Eラーニング教材『わかる！伝わる！はじめての「やさしい日本語」～分かち書き編・ポスター編～』弘前大学人文学部社会言語学研究室

### (3)研究発表、講演

[研究発表]

- 山形県鶴岡市方言におけるテンスとアスペクト～鶴岡の発展的調査～  
津田智史、阿部貴人、佐藤亮一、水野義道、米田正人と共同発表  
日本方言研究会第102回大会（学習院大学）

[講演]

- 青森県の方言―南部弁・下北弁・津軽弁の境界について考える  
青森県五戸町教育大会（五戸町立記念館）
- 日本語学会2016年度秋季大会シンポジウム「日本語らしさとわかりやすい日本語」  
外国人被災者に情報を伝える「やさしい日本語」表現～プラグマティック文法研究試論～（学習院大学）
- 外国人住民の言語権と「やさしい日本語」～大規模災害下の情報をどう得ていたか～  
非常時における外国人とのコミュニケーション（全国市町村国際文化研修所）
- 災害時の外国人への情報伝達から学ぶ多文化共生～「やさしい日本語」の可能性  
災害対応セミナー（東京自治会館）
- 東京2020オリンピック・パラリンピックに向けた多言語対応  
多言語対応・ICT化推進フォーラムin多摩（東京自治会館）
- 「やさしい日本語」と外国人被災者用揭示物  
防災デザイン研究会（GK京都）
- 方言を介した地域支援活動・「やさしい日本語」の取り組み―社会的言語ニーズへの方言学的研究手法の適用―  
日本方言研究会創立50周年記念企画（東北文科大学）
- 外国人住民の言語権と「やさしい日本語」～10.23・新潟県中越地震の知恵をこれからの大規模災害に活かす  
日本人のための「やさしい日本語」（ながおか市民センター）
- 日本の多言語対応と「やさしい日本語」  
多言語対応ICT化推進フォーラム（ベルサール東京日本橋）
- インバウンドのための多言語対応とフェイルセーフとしての「やさしい日本語」  
インバウンド観光セミナー（弘前市）

### (6)科学研究費補助金、その他の競争的研究資金など

- アジア諸国との関係において日本語が抱えるソフトパワーとしての言語政策的役割研究  
挑戦的萌芽研究（研究代表者）平成26年度～平成28年度
- 日本語文難易度推定と音声合成による「やさしい日本語」作成補助システムの研究開発  
基盤研究（B）（研究分担者）平成26年度～平成28年度

### (7)共同研究、受託研究など

- 日本語文難易度推定と音声合成による「やさしい日本語」作成補助システムの研究開発

## 曾 我 亨

### (1)現在の研究テーマ

- 東アフリカ牧畜社会における気候変動と紛争
- 東アフリカにおける難民の生存を可能にした新たな経済活動
- 人類の進化史的基盤に関する研究

### (2)著書、論文、その他

#### [著書]

- 曾我亨, 2016, 「他者が立ち現れるとき」, 河合香吏編, 『他者』, 京都大学出版会, pp.65-86.

#### [論文]

- Toru SOGA 「The Formation of Institutions」 『Institutions: The Evolution of Human Sociality』 Kyoto University Press & Trans Pacific Press、単著、2017年3月

### (3)研究発表、講演

#### [研究発表]

- Aiko Hibino, Toru SOGA, 2016, "Reinforcing and balancing rural sustainability: Modeling innovation in garlic production in Aomori, Japan," The 18th World-Congress of International Union of Anthropological and Ethnological Sciences at Dubrovnik, 4 th May- 9 th May 2016.
- Toru SOGA, 2016, " The Global Camel Trading: Transforms the Ethnic Relations and Pastoral Economies in Southern Ethiopia," The 18th World-Congress of International Union of Anthropological and Ethnological Sciences at Dubrovnik, 4 th May- 9 th May 2016.
- 曾我亨「地域研究と地域学のズレと重なり」日本学術会議公開シンポジウム「地域学のこれまでとこれから」、日本学術会議講堂、2016年10月8日
- 曾我亨「グループ・ダイナミックスの＜時間＞」日本グループ・ダイナミックス学会第63回大会ワークショップ、九州大学、2016年10月9日
- 曾我亨「アフリカ牧畜社会の紛争と協力」21世紀の「他者」理解プロジェクト研究会、名古屋大学、2016年11月26日-27日
- 曾我亨「極限のなかでリスクから目をそらし続けること」人類社会の進化史的基盤研究（4）、東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、2017年3月4日

### (6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 科研（基盤研究C）「東アフリカ牧畜社会における降雨変動と紛争のメカニズム」（代表：曾我亨）
- 科研（基盤研究B）「援助と投資の経済人類学：エチオピアの食料資源の市場化／脱市場化に関する実証分析」（代表：松村圭一郎、立教大学）研究分担者

### (7)共同研究、受託研究など

- 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所共同研究員

## 大 橋 忠 宏

### (1)現在の研究テーマ

- 空港や路線の特性を考慮した国内及び国際航空市場特性の検討
- 弘前市を含む津軽地方における持続可能な公共交通サービスの設計

#### [論文]

- 大橋忠宏, 小枝章人, 「駅乗降客データからの駅間交通量作成に関する一考察：弘南鉄道を例として」, 『人文社会科学論叢 社会科学篇』, 第2号, pp.61-71, 弘前大学人文社会学部, 共著, 2017. 2
- 栗原由紀子, 大橋忠宏「弘南鉄道大鰐線の需要推定と利用促進への課題」『人文社会科学論叢 社会科学篇』, 第2号, pp.73-84, 共著, 2017. 2

### (3)研究発表、講演

#### [研究発表]

- 大橋忠宏, 柴田優起「新幹線整備が北東北・北海道の旅客市場に与える影響」2016年度公益事業学会北海道東北部会、共同、北海商科大学、2016年9月3日



(4)学外集中講義など

- H28年度後期「地域と情報ネットワーク」青森公立大学, 2016年9月~11月
- H28弘高出前講義「都市地域計画への誘い」青森県立弘前高等学校, 2016年9月2日

## 内 海 淳

(1)現在の研究テーマ

- XML規格を用いた文書処理

## 羽 淵 一 代

(1)現在の研究テーマ

- 親密性と近代化
- 高度情報化とメディア文化の成熟

(2)著書、論文、その他

[著書]

- 羽淵一代, 2016「現代的イエ意識と地方」川崎賢一、浅野智彦編『現代若者の溶解』, pp121-150、勁草書房

[論文]

- Ichiyo HABUCHI, 2016, Romantic Relationships and Media usage among University Students, Hidenori TOMITA eds, *The Post-Mobile Society From the smart/mobile to second offline*, pp.93-104, Routledge.

(5)海外出張・研修、そのほかの海外での活動など

- ケニア共和国 海外調査 2016年4月

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 科学研究費補助金・萌芽研究「周縁地域における携帯電話を利用したリテラシー獲得支援」(研究代表者)、平成26~28年度
- 科学研究費補助金・基盤研究(B)「情報化社会における青少年の性の実態と性教育問題の社会学的解明」(研究分担者)、平成27~30年度
- 科学研究費補助金・基盤研究(B)「ポスト・モバイル社会に関する社会学的研究」(研究分担者)、平成27~30年度

## 増 山 篤

(1)現在の研究テーマ

- 地理的な近接性(アクセシビリティ)に関する理論的・実証的研究

## 日比野 愛 子

(1)現在の研究テーマ

- 道具と組織との相互変容過程
- ゲーミングを活用したコミュニケーションデザイン

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 日比野愛子「生命科学実験室のグループ・ダイナミックス: テクノロジカル・プラトールからのエスノグラフィ(グループ・ダイナミックスの〈時間〉)」『実験社会心理学研究第56巻』, pp.82-93、単著、2016年9月

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- Aiko Hibino, Toru Soga「Reinforcing and balancing rural sustainability: Modeling innovation in garlic production in Aomori, Japan」International Union of Anthropological and Ethnological Sciences's (IUAES) Inter-Congress、共同、Hotel Palace Dubrovnik, Dubrovnik, Croatia、2016年5月4日
- Aiko Hibino「Dynamics of Technology Development :A Case of Unhappy Marriage between Nano and Bio?」4th Workshop on Forecasting and Society: Social and Political Dimensions of "the Science of Forecasting"、単独、2016年7月21日
- 日比野愛子「グループ・ダイナミックスの〈時間〉1 広げる 邂逅の時間」グループ・ダイナミックス学会第63回大会、単独、九州大学箱崎キャンパス、2016年10月9日(ワークショップ企画、発表)
- 日比野愛子「社会シミュレーションにおける予測と行為遂行性」第15回科学技術社会論学会年次大会、単独、北海道大学、

2016年11月5日

- 日比野愛子「道具マトリックス論によるナノバイオデバイスの戦略分析」「細胞を創る」研究会9.0、単独、早稲田大学 国際会議場 井深大記念ホール、2016年11月21日
- Aiko Hibino「Instrumental Matrix: Anatomy of the Struggle of Scanning Probe Microscopy in the Nano-Bio Field」5th Workshop on Forecasting and Society: Social and Political Dimensions of "the Science of Forecasting"、単独、2017年1月13日
- 日比野愛子「シミュレーション実践への科学社会学的接近」「シミュレーションの科学論」研究会、単独、2017年3月27日

(4)学外集中講義など

- ひろだいナビ・キャラバン in 三本木高校、「あなたの知らない「予測」の力」、2016年10月12日
- 地域未来創生塾「ゲームで思いめぐらす、地域での働き方」、2017年1月11日

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 科学研究費補助金・若手B、「<生命>の多重的構成過程に関する実証研究・国内人工細胞実験室を対象に」（研究代表者）、平成28～30年度
- 科学研究費補助金・基盤A、「「予測」をめぐる科学・政策・社会の関係」（研究分担者）、平成27～30年度
- 科学技術融合振興財団、「エスノグラフィにもとづく文化係留型ゲーミング・シミュレーションの開発実践」（研究代表者）、平成29年度

(8)学会・研究会・講演会などの開催

[弘前大学人文社会科学部主催または共催のもの]

- 地域未来創生センターセミナー 学内方法論研修会・ワークショップ「「語り」から垣間見る社会問題：テキストマイニングを通して」2017年1月20日

[それ以外のもの]

- フィールドワーク社会心理学研究会開催、2017年3月12日～14日

## 古村 健太郎

(1)現在の研究テーマ

- 恋人間暴力、恋愛関係の維持と精神的健康、アタッチメント理論から見た失恋経験

(2)著書、論文、その他

[著書]

- 谷口淳一、相馬敏彦、金政祐司、西村太志「エピソードでわかる社会心理学 恋愛関係・友人関係から学ぶ心理学」、分担執筆、pp.86-87、北樹出版

[論文]

- 兪善英・古村健太郎・松井豊・丸山晋「東日本大震災に派遣された消防職員のストレス症状と外傷後成長」、『心理学研究第87巻』、pp.644-650、共著、2017年2月
- 古村健太郎「恋愛関係における接近・回避コミットメントと投資モデルの関連」、『パーソナリティ研究第25巻』、pp.240-243、2017年2月
- 仲嶺真、古村健太郎「ソシオセクシャリティを測る — SOI-Rの邦訳 —」『心理学研究第87巻』、pp.524-534、共著、2016年12月
- 古村健太郎、村上達也、戸田弘二「アダルト・アタッチメント・スタイル尺度（ECR-RS）日本語版の妥当性評価」、『心理学研究第87巻』、pp.303-313、共著、2016年9月

[その他]

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- Komura, K. 「Psychological violence victimization caused psychologically entrapped in their romantic relationships: Analysis using latent class analysis.」 the 31st International Congress of Psychology, Yokohama, Japan., 2017年7月26日
- Nakamine, S. & Komura, K. 「The effect of sociosexuality on courtship behaviors.」, the 31st International Congress of Psychology, Yokohama, Japan. 2017年7月27日

7. Nishimura, T. & Komura, K. 「A Function of studying for high school entrance examination.」 the 31st International Congress of Psychology, Yokohama, Japan, 2017年7月27日

8. Odagiri, N., Matsui, Y., Ui, M., & Komura, K. 「An attitude toward post-divorced co-parenting in Japan.」, the 31st

International Congress of Psychology, Yokohama, Japan, 2017年7月27日

9. Ui, M., Odagire, N., Komura, K., & Matsui, Y. 「Ambivalent sexism in Japanese adults.」 the 31st International Congress of Psychology, Yokohama, Japan, 2017年7月28日

- 古村健太郎・村上達也・戸田弘二 「アタッチメント・スタイルの階層構造の検討（1）—ECR-GOの作成—」 日本パーソナリティ心理学会第25回大会, 関西大学, 2016年9月15日.
- 澤邊 潤・後藤康志・伊藤 充・古村健太郎・山田浩之 (2016). 「大学・教育委員会・学校の連携による教育プログラム開発の試み —プログラム開発に関するビジョンの共有と教育ニーズ把握のプロセス—」, 日本教育工学会第32回全国大会, 大阪大学, 2016年9月16日
- 古村健太郎・小田切紀子・宇井美代子・松井豊 「夫婦関係へのコミットメントの日米比較—特異項目機能による接近・回避コミットメント尺度の比較—」 日本社会心理学会第57回大会, 関西学院大学, 9月17日
- 澤邊 潤・古村健太郎 「自治体・地域・大学の協働による授業科目開発のプロセス（1）—参加型アクションリサーチによる学習課題の分析—」 日本教育心理学会第58回総会, 香川大学, 2016年10月9日

[講演]

- 古村健太郎 「恋愛関係への拘束状態に対するコミットメントと心理的暴力からのアプローチ」 親密な関係から抜け出せない人々—青年期の恋愛関係を中心に— (企画者: 高坂康雅) 日本発達心理学会第27回大会, 北海道大学, 2016年4月29日
- 古村健太郎 「恋愛関係における動機づけ—恋愛関係へのコミットメントに注目して」 対人関係における動機づけを考える (企画: ソーシャルモチベーション研究分科会) 日本発達心理学会第27回大会, 北海道大学, 2016年4月29日

(4)学外集中講義など

- 筑波大学附属高等学校 心理学講習会「コミュニケーションの心理学」講師, 筑波大学附属高校, 2017年2月19日

(6)科学研究費補助金、その他の競争的研究資金など

- 科学研究費補助金・研究活動スタート支援、「webメールを用いた恋人間暴力の予防的介入プログラムの開発」(研究代表者)、平成28～30年度

## ○ビジネスマネジメント講座

保 田 宗 良

(1)現在の研究テーマ

- 地域医療の質的向上と医療マーケティングシステム

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 保田宗良「地域医療の質的向上と医療マーケティング」『消費経済研究』第5号、pp.85-96、単著、2016年6月
- 保田宗良「医療サービス研究の検討項目についての新たな考察」『人文社会科学論叢—社会科学篇』創刊号、pp.103-112、単著、2016年8月

[その他]

- 保田宗良「まちづくりとマーケティング思考の若干の考察」『融合』No.28、pp.23-26、単著、2017年2月
- 保田宗良「青森県地域の消費者教育推進のための研究」『地域未来創生センタージャーナル』第3号、pp.85-86、単著、2017年3月

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 保田宗良「地域医療の質的向上と医療サービスの新たな形態」日本消費経済学会全国大会、岡山理科大学、2016年7月2日
- 保田宗良「地域医療の質的向上とヘルスケアサービスの考察」日本産業経済学会全国大会、長崎女子短期大学、2016年9月8日
- 保田宗良「医療マーケティング研究の新たな研究視座」日本消費経済学会東日本大会、中央学院大学、2016年12月3日
- 保田宗良「医療サービスと顧客満足に関する一考察」日本消費経済学会北海道・東北部会研究報告会、北星学園大学、2017年3月25日

[講演]

- 保田宗良「中小サービス業のマーケティング戦略 ～観光マーケティング戦略に学ぶ」次世代経営者のためのイノベーション経営戦略講座、デューラー東北、2016年12月13日

- 保田宗良「青森県地域の消費者教育推進のための研究」青森県消費者問題研究会、青森市福祉プラザ、2016年12月24日
- (6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など
  - 基盤研究 (C)「医療サービスの質的向上を意図した健康マーケティングシステムの構築」(研究代表者) 平成26～28年度
- (8)学会・研究会・講演会などの開催  
[弘前大学人文社会科学部主催または共催のもの]
  - フォーラム「消費者フォーラム in Hirosaki」弘前大学人文社会科学部、2017年1月28日

## 加 藤 恵 吉

- (1)現在の研究テーマ
  - 国際課税、法人税法、コーポレート・ガバナンス
- (2)著書、論文、その他  
[著書]
  - 加藤恵吉、許霽他『〈四訂版〉基礎簿記会計』共著、2016年9月、五紘社
- [論文]
  - 大沼宏、加藤恵吉「負債政策と租税負担削減行動、及びコーポレート・ガバナンスの関連性」『日本会計研究学会第75回大会報告要旨』、日本会計研究学会、全14頁、共著、2016年9月
- (3)研究発表、講演  
[研究発表]
  - 加藤恵吉、大沼宏「負債政策と租税負担削減行動、及びコーポレート・ガバナンスの関連性」日本会計研究学会全国大会、2016年9月11日 於：静岡市グランシップ
- [その他]
  - 黄 孝春、ビクター・カーペンター、加藤恵吉、内藤周子、小杉雅俊「コメの自然栽培法と地域農業の活性化」『地域未来創生センタージャーナル』弘前大学地域未来創生センター、47-50頁、共著、2017年2月

## 森 樹 男

- (1)現在の研究テーマ
  - 日系多国籍企業の地域統括本社制
  - 北欧の地域活性化モデルと青森県
  - 同人マンガの電子書籍化と海外展開
  - 地方企業における商品開発とデザイン
  - 観光ビジネスと地域活性化
- (2)著書、論文、その他  
[その他]
  - 森樹男「古沢昌之・安室憲一・山口隆英編著『新興国における人事労務管理と現地経営』」『世界経済評論』第685号、p.91, 単著、2016年7月
  - 森樹男編『若者の感性を活かした 産学官共同商品開発プログラム 平成28年度 事業実施報告書』、共著、2017年2月、弘前大学人文社会科学部
  - 森樹男編『めざせ！じょっぱり起業家 青森の魅力を高める中核人材育成事業 平成28年度事業成果報告書』、共著、2017年2月、弘前大学人文社会科学部
  - 森樹男編『平成28年度JR被害日本寄附講義 青森県の観光振興と地域活性化 実施報告書』、共著、2017年3月、弘前大学
  - 森樹男編『弘前大学人文学部ビジネスシミュレーション実習Ⅱ・Ⅲ 課題解決型学習と学生の主体的な学び—大学生のチャレンジ2016— 報告書』共著、弘前大学人文社会科学部、2017年3月
- (3)研究発表、講演  
[研究発表]
  - 森樹男・高島克史「地域と連携したPBL型インターンシップ～現在の取組編・改組による変化～」日本インターンシップ学会 2016年度関東支部会、共同、ガレソン新潟、2016年12月11日
- (4)学外集中講義など
  - むつサテライトキャンパス高校生向け講座「グローバル社会と地域」むつ市立図書館、2016年11月26日

(5)海外出張・研修、そのほかの海外での活動など

- 台湾，グローバル人材育成支援事業，2016年9月13日～16日
- 台湾，日台国際観光フォーラム打合せ，2017年2月14日～17日
- 台湾，教養科目「グローバル社会・経済—外から見た「日本」「青森」—」引率，2017年2月27日～3月4日

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 基盤研究（C）「日系多国籍企業のアジア地域統括本社の機能高度化とアセアン経済共同体の創設」（研究代表者），2015年度～2017年度
- 経済産業省「産学連携サービス経営人材育成事業」（事業実施代表者）、2015年度～2016年度

(7)共同研究、受託研究など

- 青森県産業技術センター弘前地域研究所「若者の感性を活かした産学官共同商品開発プログラム構築事業（平成28年度）」2015年7月～2017年3月

## 熊 田 憲

(1)現在の研究テーマ

- 地域イノベーション、イノベーション

(4)学外集中講義など

- イノベーション経営戦略講座「地域中小企業の経営とイノベーション」デューリー東北新聞社，2016年11月9日

(8)学会・研究会・講演会などの開催

[弘前大学人文社会科学部主催または共催のもの]

- 平成28年度産学連携サービス経営人材育成事業「めざせ！じょっぱり起業家。青森の魅力を高める中核人材育成事業 平成28年度成果報告会」アートホテル弘前シティ，2016年12月16日

## 高 島 克 史

(1)現在の研究テーマ

- 経営戦略論，ベンチャー企業論

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- Katsushi Takashima “Core Human Resource Development Project for Promoting Aomori Region's Value”，The 4th International Conference on serviceology, 単独，芝浦工業大学，2016年9月6日
- 高島克史「弘前大学における地域企業との連携事業」東北工学教育協会64回年次大会、単独、東北大学、2016年10月21日
- 森樹男、高島克史「地域と連携したPBL型インターンシップ」日本インターンシップ学会 2016年度関東支部会、ガレッソ新潟、2016年12月11日

[講演]

- 田名部高校出前講義「経営学を学ぶと得られる力」田名部高校 2016年9月8日
- ふじさき農産物ブランド化推進協議会講演会「製品のブランド化」ふれあいずーむ館 2017年1月18日

(5)海外出張・研修、そのほかの海外での活動など

- 台湾高雄市「グローバル人材育成事業市民等協働プログラム事業」2016年9月13日～16日
- 台湾台北市「21世紀科目 国際交流を考える（G）」2017年3月6日～10日

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 経済産業省「サービス経営人材育成事業」

(8)学会・研究会・講演会などの開催

[弘前大学人文社会科学部主催または共催のもの]

- 「めざせじょっぱり起業家—大学生のチャレンジ2016」

## 内 藤 周 子

(1)現在の研究テーマ

- 財務会計、IFRS、国際財務報告、公会計、農業会計



(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 内藤周子「特産物から生じた経済的な効果の測定」日本会計研究学会第90回東北部会・研究発表、単独、福島学院大学駅前キャンパス、2016年7月30日

[講演]

- 内藤周子「コメの自然栽培に関する考察—経営学的視点からのデータを活用して—」コメの自然栽培を考える、単独、弘前大学、2017年1月25日

[ディスカッサント]

- 内藤周子「『品質コストの適用を阻害する要因についての一考察』（小杉雅俊氏）」第41回弘前大学経済学会大会・研究発表、弘前大学、2016年10月21日

(4)学外集中講義など

- フィールドスタディ「地域特性を活かしたビジネスモデルを学ぶ」2016年08月26日
- ひろだいナビゲートキャラバン「会計ルールの国際的な統一について」青森北高校、2016年9月6日
- ひろだいナビゲートキャラバン「企業の業績と会計」青森南高校、2016年10月27日

(6)科学研究費補助金、その他の競争的研究資金など

- 挑戦的萌芽研究「六次産業化における事業の評価指標の開発とその応用可能性」（研究代表者）2014年度～2016年度

(8)学会・研究会・講演会などの開催

[弘前大学人文学部主催または共催のもの]

- コメの自然栽培を考える、弘前大学、2017年1月25日

## 大 倉 邦 夫

(1)現在の研究テーマ

- 企業の社会的責任、社会的協働、ソーシャル・ビジネス、協働マネジャー

[論文]

- 大倉邦夫「社会的協働における協働マネジャーについての研究の動向」『人文社会科学論叢—社会科学篇』第2号、pp.85-100、単著、2017年2月

(6)科学研究費補助金、その他の競争的研究資金など

- 若手研究 (B)「社会的協働のマネジメントにおける協働マネジャーの役割に関する研究」（研究代表者）平成27年度～平成29年度

(8)学会・研究会・講演会などの開催

[弘前大学人文社会科学部主催または共催のもの]

- 平成28年度 「めざせ！じょっぱり起業家。青森の魅力を高める中核人材育成事業」成果報告会、アートホテル弘前シティ、2016年12月16日（金）

## 小 杉 雅 俊

(1)現在の研究テーマ

- イギリスにおける品質原価計算

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 小杉雅俊「品質コストマネジメントで機能するトレードオフ関係に関する考察 —建設業におけるケースレビューを踏まえて—」『人文社会科学論叢—社会科学篇』第2号、弘前大学、pp.101-112、単著、2017年2月

[その他（研究ノート・研究報告書など）]

- 小杉雅俊「プロセスコストモデルとABCを用いたPAFアプローチとの関係性に関する研究報告書」『年報』第36号、金沢星陵大学総合研究所、p.42、単著、2016年5月
- 黄孝春、ビクター・カーペンター、加藤恵吉、内藤周子、小杉雅俊「コメの自然栽培法と地域農業の活性化」『地域未来創生センタージャーナル』弘前大学地域未来創生センター、pp.47-50、共著、2017年2月

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 小杉雅俊「品質コストの適用を阻害する要因についての一考察」第41回弘前大学経済学会大会、弘前大学、単独、2016年10月21日

[講演]

- 小杉雅俊「ああ！もしあの時ラーメンを落としていなかったら！ —サイアクな現実と理想の状態をコストを使って分析する—」弘前大学オープンキャンパス2016、弘前大学、単独、2016年8月8日

(4)学外集中講義など

- 小杉雅俊「大学で経済・経営を学ぶとは —管理会計学の視点から—」秋田県立角館高校大学模擬講義、秋田県立角館高校、単独、2016年11月25日

(5)海外出張・研修、そのほかの海外での活動など

- 2016年5月8日～5月16日 オランダ 出張

(8)学会・研究会・講演会などの開催

[弘前大学人文社会科学部主催または共催のもの]

- 平成28年度地域未来創生センターフォーラム「コメの自然栽培を考える」司会、弘前大学、2017年1月25日

## 恩 田 睦

(1)現在の研究テーマ

- 経営史、日本経済史、鉄道史

(2)著書、論文、その他

[著書]

- 恩田睦「新幹線計画と戸田市」戸田市教育委員会編『戸田市史：昭和から平成へ』pp.185-195、共著、2016年10月、戸田市
- 恩田睦「新幹線の開業とさいたま市」さいたま市「さいたま市史：鉄道で語るさいたまの歴史」pp.202-221、共著、2017年3月、さいたま市
- 恩田睦「川越線の電化」さいたま市「さいたま市史：鉄道で語るさいたまの歴史」pp.223-224、共著、2017年3月、さいたま市

[論文]

- 恩田睦「1980年代における浦和市都市モノレール構想：東部地域の「自立都市」計画を中心に」『さいたま市アーカイブズセンター紀要』第1巻、pp.133-149、単著、2017年3月

[その他、書評]

- 恩田睦「書評 老川慶喜著『井上勝：職掌は唯クロカネの道作に候』（ミネルヴァ日本評伝選）」『経営史学』第2号51巻、pp.79-81、単著、2016年9月

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 恩田睦「東北新幹線の建設と埼玉県南地域」戦後鉄道史研究会、単独、跡見学園女子大学、2016年5月28日

(4)学外集中講義など

- 東北税理士会研修「流通革命と地域商業」弘前大学、2016年9月5日
- 地域未来創生塾@中央公民館「地方鉄道の現状と活性化のあり方」弘前文化センター、2016年10月12日

## ○経済システム講座

## 北 島 誓 子

(1)現在の研究テーマ

- 連携方式の制度化と社会資本
- 産学連携と知の産業化

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 北島誓子「Commercializing research and interplay between neoliberalism and collaboration」『Proceedings for 7th Annual Conference of IIPPE』、pp.24-39、単著、2016年9月
- 北島誓子「社会資本の再検討」『弘前大学経済研究』、単著、2016年12月

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- Seiko Kitajima“Political Economy: International Trends and National Differences”, 7th Annual Conference in Political

Economy、単独、2016年9月7日

(5)海外出張・研修、そのほかの海外での活動など

- ポルトガル、学会発表@リスボン大学、2016年9月7日～9月10日

## 池 田 憲 隆

(1)現在の研究テーマ

- 1883年から実施された長期軍備拡張計画の政治経済的影響について

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 池田憲隆「1883年長期軍備拡張計画の成立をめぐって」『人文社会科学論叢』（人文科学篇）第2号、pp.113-132、単著、2017年2月

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 基盤研究（C）「近代日本における長期軍備拡張計画が及ぼした政治経済的影響に関する研究」（研究代表者）、平成28～30年度

## 細 矢 浩 志

(1)現在の研究テーマ

- EU統合下の欧州自動車産業の変容に関する実証研究

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 細矢浩志「中東欧自動車産業の再編と欧州生産ネットワークの進化」第56回比較経済体制学会全国大会、単独、弘前大学教育学部、2016年6月4日

(4)学外集中講義など

- 「生活と経済」弘前医療福祉大学、2016年4月～9月
- 「社会経済論」弘前医療福祉大学、2016年10月～12月

## 黄 孝 春

(1)現在の研究テーマ

- りんご産業の経済分析、コメの自然栽培、鉄鉱石価格の決定方式

(2)著書、論文、その他

[著書]

- カーペンター・黄孝春・神田健策編著『グローバル下のリンゴ産業—世界と青森—』共著、弘前大学出版会、2017年3月

[論文]

- 田中彰・黄孝春・康上賢淑「レアアースショックと総合商社」『産業学会研究年報』第31巻、共著、27-39頁、2016年4月
- 黄孝春「増産期青森りんごにおける共同販売の実態」、『人文社会科学論叢—社会科学篇』創刊号、113-128頁、2016年8月

[その他]

- 黄孝春「海外リンゴ事情」『林檎商組日報』2016年6月
- Tanaka, Akira and Xiaochun Huang 「Structural change in mass-production systems: China's iron and steel industry and the global iron ore market」『1st World Congress on Business History/ 20th Congress of European Business History Association』2016年8月
- 黄孝春「鉄鉱石貿易方式の転換」『中国経済経営学会2016年度全国大会報告要旨集』pp.7-9、2016年11月
- 黄孝春・カーペンター・加藤恵吉・内藤周子・小杉雅俊「コメの自然栽培法と地域農業の活性化」『弘前大学特定プロジェクト地域未来創生センタージャーナル』2017年2月

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- Shion-Kojo, Xiaochun-Huang, Tanaka-Akira “Cooperation between Japan and China on issues of Asian Rare Earth” ASDP National, Political and Social Change (PSC) Seminar、共同、2016年8月29日（月）、The Australian National University
- Yangling, Shaanxi, China “Apple Industry in Japan” 1st International apple Symposium、単独、2016年10月10日（月）、Yangling, Shaanxi, China

- 黄孝春「趣旨説明」平成28年度地域未来創生センターフォーラム、弘前大学、2017年1月25日
- 黄孝春「問題提起」青森県水産物輸出拡大シンポジウム、青森市水産ビル、2017年1月27日
- 黄孝春「世界りんご産業の動向と青森県りんご産業の進路」弘前大学りんご輸出研究会、弘前大学50周年記念会館、2017年2月8日

[講演]

- 黄孝春「自然栽培の過去と現在」、ハルビン師範大学招待講演、ハルビン師範大学経済管理学院、2016年9月20日

(5)海外出張・研修、そのほかの海外での活動など

- 中国上海、出張、2016年6月22日～25日
- 中国哈爾濱、出張、2016年9月18日～28日
- 中国楊凌、出張、2016年10月9日～15日
- シンガポール、出張、2017年1月11日～15日

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 平成28-30〔2016-18〕年度 日本学術振興会学術研究助成基金助成金 基盤研究（C）（研究分担者、課題番号 16K03774）「資源価格スーパーサイクルと資源企業の適応行動：鉄鋼原料に関する比較経営史」.

(7)共同研究、受託研究など

- 地域未来創生センタープロジェクト「コメの自然栽培と地域農業の活性化」
- 弘前大学戦略Ⅰ研究プロジェクト「農産物輸出国の現地調査等」

(8)学会・研究会・講演会などの開催

[弘前大学人文社会科学部主催または共催のもの]

- 弘前大学りんご輸出研究会 2016年6月15日、2017年2月8日
- 平成28年度地域未来創生センターフォーラム「コメの自然栽培を考える」、2017年1月25日
- 青森県水産物輸出拡大シンポジウム 2017年1月27日、青森市水産ビル

## 李 永 俊

(1)現在の研究テーマ

- 人口減少対策に関する調査・研究
- 人口移動、流出防止策、UJIターン者の支援策などに関する調査・研究
- 災害復興、災害に伴う人口移動に関する調査・研究
- ボランティア労働供給に関する研究

(2)著書、論文、その他

[著書]

- Eric C. Jones, A.J. Faas, Young-Jun LEE, Hiroaki Sugiura, Ingrida Geciene 『Social Network Analysis of Disaster Reponse, Recovery, and Adaptation Edited』、共著、2016年10月、Elsevier

[論文]

- Young-Jun LEE and Su-Jin LEE, Key Factors in Determining “UJI-Turn” Migration. – An Examination of the Factors Contributing to “UJI-Turn” Migration in Aomori-, Journal of Regional Studies, Vol. 24-2, pp.163-180, Jun. 2016 (Korean) (査読有)
- 李永俊、「地方圏への移住の決定要因とその促進策に関する研究?青森県の住民アンケート調査から」、『地域未来創生センタージャーナル』、5-18頁、単著、2017年2月（査読無）

[その他]

- Young-Jun LEE 「Tokyo ikkyoku shuchu ga maneku jinko kyugen (The Disappearance of the Region: The Rapid Population Decline brought on by Mono-Polar Concentration)」, Social Science Japan Journal, 2016年8月、単著
- 李永俊、「定住意向の決定要因について」『若者の学習・生活体験と県内定住に関する県民の意識調査報告書』青森県教育委員会、40-48頁
- 李永俊、平成27年度地域未来創生センターフォーラム報告「人口減少社会における持続可能な地域づくりを考える」、地域未来創生センタージャーナル、2017年2月
- 李永俊、平成27年度地域未来創生センターフォーラム報告「東日本大震災からの地域復興を考える」、地域未来創生センタージャーナル、2017年2月

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 李永俊「相次ぐ大規模災害と長期支援活動」日本グループ・ダイナミックス学会第63回大会、九州大学、2016年10月9日
- 李永俊、日比野愛子「東日本大震災からの復興を考える」、平成28年度地域未来創生センターフォーラム 人口減少社会における持続可能な地域づくりを考える、共同、弘前市土手町コミュニティパーク、2017年2月
- 李永俊「“地域と共に歩む”センターを目指して」、平成28年度地域未来創生センターフォーラム 人口減少社会における持続可能な地域づくりを考える、共同、弘前市土手町コミュニティパーク、2017年2月

[講演]

- 李永俊「地方圏への移住の決定要因とその促進策について—青森県の住民アンケート調査から—」、平成28年度地方統計職員業務研修基礎研修、2016年6月1日、青森市ラ・プラス青い森
- 李永俊「人口減少問題の克服策を探る」、むつ市連続講演会「少子高齢化社会がもたらす地域課題」、2015年6月27日、下北文化会館、一般市民、80名
- 李永俊「災害とボランティア活動」、弘前市防災マイスター育成講座、弘前市消防本部、一般市民、50名、2016年6月25日

(4)学外集中講義など

- 青森公立大学大学院非常勤講師・労働経済学特論

(5)海外出張・研修、そのほかの海外での活動など

- 平成28年度弘前大学グローバル人材育成事業学生海外PBLプログラム「「地域を担う人材育成と地域活性化のモデルの構築」を題材とした国際交流PBLプログラム」2016年7月10日～7月15日。
- 韓国出張2017年3月20日～3月22日

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 平成27年度「青森ブランド価値創造研究」「社会的行動が健康度に及ぼす影響について—岩木健康増進プロジェクトのデータを用いて—（代表、2,000千円）」

(7)共同研究、受託研究など

- 李永俊「弘前市・つがる地域の大学生・企業の就職に関する意識調査」弘前市からの共同研究、2016年11月～2017年3月。

(8)学会・研究会・講演会などの開催

[弘前大学人文社会科学部主催または共催のもの]

- 地域未来創生センターフォーラム「人口減少社会における持続可能な地域づくりを考える」土手町コミュニティパーク、2017年2月3日
- 活動報告会「弘前大学ボランティアセンター活動報告会」ヒロロ3階健康ホール、2017年3月10日
- 地域未来創生塾、「人口減少問題の克服策を探る」、弘前市中央公民館、2017年1月25日
- 市民ボランティア講座「熊本地震現地調査報告」、弘前大学人文社会科学部4階多目的ホール
- 市民ボランティア講座「熊本地震現地調査・ボランティア活動状況報告」弘前大学人文社会科学部4階多目的ホール

## 福田進治

(1)現在の研究テーマ

- リカードの経済理論

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 福田進治「中村廣治と日本のリカードウ研究」第34回リカードウ研究会、単独、立教大学、2016年12月25日

[講演]

- 福田進治「核燃料サイクルをめぐる経済的諸問題」第24回市民講座：緊急シンポジウム「どうなる？ 高速増殖炉もんじゅ廃炉後の青森県」（核燃・だまっちゃおられん津軽の会）、津軽保健生協ホール、2016年11月29日
- 福田進治（コーディネータ）「地域における消費者問題への取り組み」消費者フォーラム in HIROSAKI（弘前大学人文社会科学部地域未来創生センター・青森県消費者問題研究会共催）、弘前大学、2017年1月28日
- 福田進治「今日の映画（『知事抹殺』の真実）について」さようなら原発・核燃3.11弘前集会、岩木文化会館あそべる、2017年3月11日

(4)学外集中講義など

- 福田進治「消費者問題講義の課題と展望—弘前大学における実践—」青森県消費者問題研究会例会、県民福祉プラザ、2016年8月27日



(6)科学研究費補助金、その他の競争的研究資金など

- 基盤研究 (B)「経済理論の大衆化から経済政策の形成へ：テキストマイニングを応用した実証研究」(研究分担者)、平成27～31年度
- 基盤研究 (C)「日本のリカード研究の独自性と多様性に関する研究」(研究代表者)、平成27～31年度

(8)学会・研究会・講演会などの開催

[弘前大学人文社会科学部主催または共催のもの]

- 平成28年度学校における消費者教育推進事業(青森県受託事業)「消費者フォーラム in 弘大」(弘前大学人文社会科学部・青森県・青森県消費者協会共催)、弘前大学、2016年11月5日

## 飯 島 裕 胤

(1)現在の研究テーマ

- 企業金融論、とくに、企業買収の経済分析、企業の利益配分について

(2)著書、論文、その他

[報告書]

- 飯島裕胤「県内企業の「健康経営」促進に向けた調査報告書」2017年3月

[ノート]

- 飯島裕胤「アクティブラーニングを効果的に実施するための共通基礎教材の開発」『平成28年度 地域未来創生センタージャーナル』単著、pp.29-36、2017年2月

(7)共同研究、受託研究など

- 青森県「県内企業の「健康経営」促進に向けた調査」

## 山 本 康 裕

(1)現在の研究テーマ

- 金融政策全般
- 銀行貸出の変動が実体経済に与える影響
- 青森県経済のマクロ時系列分析

(2)著書、論文、その他

[その他]

- Yamamoto (2016) “Does an oligopolistic bank loan market expand or reduce the effectiveness of conventional and unconventional monetary policies?” mimemo

## 小谷田 文 彦

(1)現在の研究テーマ

- 企業行動の実証分析、地域活性化と産官学連携

## 金 目 哲 郎

(1)現在の研究テーマ

- 地方交付税、地方財源保障、財政民主主義

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 金目哲郎「地方交付税の算定内容の変化に関する事例研究」『人文社会科学論叢—社会科学篇』pp.129-142、単著、2016年8月

(4)学外集中講義など

- 出張講義「大学と職業を考える講話」、北海道岩見沢西高校、2016年9月14日
- 出張講義「私たちは『格差社会』問題にどう立ち向かうのか—大学で学ぶ『財政学』で考えてみよう」、北海道苫小牧東高校、2016年12月9日

(5)海外出張・研修、その他の海外での活動など

- 韓国、地方財政の研究打合せ、2017年3月5日
- 台湾、開南大学、地域社会研究科の説明、2017年3月7日～8日

(8)学会・研究会・講演会などの開催

[それ以外のもの]

- 学部「地域課題研究A」受講学生による「学習成果発表会」、弘前市役所、2016年7月27日
- 財政学・経済政策ゼミナール合同大会「全国7大学による『5年後の日本・世界経済が抱える課題』に関する研究成果発表」、桃山学院大学、2016年8月30日～9月1日

## 桑波田 浩 之

(1)現在の研究テーマ

- 企業のグローバル化や情報通信技術の利用が所得格差に与える影響、東日本大震災後の輸出減少の要因

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 桑波田浩之「Does Information Technology Lead Firms to Flatten? Evidence from Japan」『The Empirical Economics Letters』、第15巻第12号、pp.1136-1146、単著、2016年12月
- 桑波田浩之「The Relationship between Information and Communication Technology and CEO's Span of Control: Evidence from Japanese Firms」『人文社会科学論叢—社会科学篇』第2号、pp.133-142、単著、2017年2月
- 桑波田浩之「事業所のグローバル化が国内雇用に与える影響：横浜市中心小企業製造業のデータを用いた実証分析」『地域未来創生センタージャーナル』単著、2017年2月

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 桑波田浩之「The Effect of Information and Communication Technology on CEO's Span of Control: Evidence from Japanese Firms」弘前大学経済学会、単独、弘前大学、2016年10月21日
- 桑波田浩之「The Effect of Information and Communication Technology on CEO's Span of Control: Evidence from Japanese Firms」日本国際経済学会、単独、中京大学、2016年10月29日

(4)学外集中講義など

- 地域未来創生塾「経済学で読み解く地域と都市の経済発展」弘前市立中央公民館、2016年11月23日

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 平成28年度弘前大学若手・新任研究者支援事業「情報通信技術の変化と企業組織」(研究代表者)2016年度
- 若手研究(B)「企業のグローバル化と情報通信技術が所得格差に与える影響に関する計量実証的研究」(研究代表者)2017年～2018年度(予定)

## ○公共政策講座

### 平 野 潔

(1)現在の研究テーマ

- 刑事過失論、裁判員制度、法教育

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 平野潔、齋藤史彦「青森家庭少年問題研究会における学ボラ活動支援」『青少年問題』第664号、一般社団法人青少年問題研究会、pp.28-33、共著、2016年10月

[その他]

- 平野潔編『弘大生から見た青森県の司法および司法関係機関—裁判員制度・司法アクセス・更生保護—』pp.1-190、2017年3月

(3)研究発表、講演

[講演]

- 平野潔「『裁判員裁判』と『被告人の更生』の架橋の可能性と限界」裁判員裁判と被告人の更生、単独、弘前大学人文社会科学部校舎多目的ホール、2016年10月29日

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 挑戦的萌芽研究「世代間対話を活用した『学社融合型』法教育プログラムの開発・試行・検証」(研究分担者)2015～2017年度

(8)学会・研究会・講演会などの開催

[弘前大学人文社会科学部主催または共催のもの]

- 「裁判員裁判と被告人の更生」、弘前大学、2016年10月29日

## 児 山 正 史

(1)現在の研究テーマ

- 公共サービスの市場（準市場）としての福祉の選択制、地方自治体の行政評価

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 児山正史「自治体行政におけるロジックモデルの作成・活用」『評価クォーターリー』第38号、pp.2-23、単著、2016年7月
- 児山正史「準市場の優劣論と介護保険制度導入時の議論」『人文社会科学論叢—社会科学篇』第2号、pp.143-156、単著、2017年2月

(4)学外集中講義など

- 出前講義「行政学入門：国の行政の組織・人事」北海道石狩南高等学校、2016年6月13日
- 地域未来創生塾「弘前市の人口減少対策をよむ」弘前市中央公民館、2016年9月14日

## 長谷河 亜希子

(1)現在の研究テーマ

- 独占禁止法、フランチャイズ・システム

(2)著書、論文、その他

[その他]

- 長谷河亜希子「第11章 流通系列化」『経済法への誘い』八千代出版、pp.160~181、単著、2016年4月
- 長谷河亜希子「第12章 大規模小売業」『経済法への誘い』八千代出版、pp.182~181、単著、2016年4月

(5)海外出張・研修、その他の海外での活動など

- 日本弁護士連合会消費者問題対策委員会独禁法部会によるオーストラリアのフランチャイズ法制に関するヒアリング調査に同行（2016年10月1日～8日）

(6)科学研究費補助金、その他の競争的研究資金など

- 基盤研究（C）「優越的地位の濫用（相対的優越的地位の濫用）問題に関する民事訴訟の役割と問題点」（研究代表者）平成28～30年度
- 基盤研究（A）「経済法、比較・国際経済法とフェアコンミュー：自由、公正、責任の競争法秩序」（研究分担者）平成26～29年度

## 近 藤 史

(1)現在の研究テーマ

- 農村部を中心とした地域の持続的発展。生態環境の利用と保全。

(2)著書、論文、その他

[その他]

- 黒崎龍悟、近藤史「タンザニア農民との学び—国家の周縁地で森林保全とエネルギーの関係を考える」『Synodos ウェブマガジン』、共著、2016年12月
- 白石壮一郎、近藤史、杉山祐子「地域活動ファシリテーションのアクション・リサーチおよび教育開発」『地域未来創生センタージャーナル』第3号、pp.67-72、共著、2017年2月

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 近藤史「ムフト村の植林普及にむけた火と水をめぐる課題と取り組み」第4回「アフリカ農村における技術の内部化プロセスの解明と循環型資源利用モデルの構築」に関する研究会、単独、福岡教育大学、2016年12月10日

(5)海外出張・研修、その他の海外での活動など

- タンザニア連合共和国、海外学術調査、2016年8月24日～9月24日
- タンザニア連合共和国、海外学術調査、2017年3月12日～30日

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 若手研究 (B)「アフリカ農村における焼畑を基盤とした産業植林による内発的発展の可能性と課題の検討」(研究代表者) 2014年度～2016年度
- 基盤研究 (B)「西アフリカにおける都市の衛生改善と農村の荒廃地修復システムSLDACSの構築」(研究分担者) 2013年度～2016年度
- 基盤研究 (A)「アフリカ農村における技術の内部化プロセスの解明と循環型資源利用モデルの構築」(研究分担者) 2015年度～2019年度
- トヨタ財団共同研究助成「タンザニアにおける小型水力発電と住民交流を基盤とした環境保全に関する実践的研究」(副代表者) 2015年度～2016年度

(8)学会・研究会・講演会などの開催

[それ以外のもの]

- 写真展「アフリカン・プリコラージュ！」弘前大学(弘大カフェ)、2017年1月18日～31日

## 吉 村 顕 真

(1)現在の研究テーマ

- 日米不法行為法の研究
- 日米救済法の研究
- 相続法の研究

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 吉村顕真「アメリカ名誉毀損法における推定的損害賠償の現代的動向—損害推定の機能について—」『青森法政論叢』第17号、青森法学会、pp.67-86、単著、2016年8月

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 「懲罰的損害賠償の現代的展開」日本私法学会(於：東京大学法学部) 2016年10月

[講演]

- 「民法典編纂史と債権法改正」東北税理士会(於：弘前大学) 2016年9月

## 白 石 壮一郎

(1)現在の研究テーマ

- 移住・移動者とホーム(家郷意識形成)、場所と共同性／公共性、地域社会の再想像、フィールドワーク(社会調査)論など

(2)著書、論文、その他

[その他]

- 白石 壮一郎、近藤 史、杉山 祐子「地域活動ファシリテーションのアクション・リサーチおよび教育開発(プロジェクト事業報告)」、『地域未来創生センタージャーナル』第3号、弘前大学地域未来創生センター、pp.65-70、2017年2月

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- Soichiro SHIRAISHI「Mobility and Family-ties: A case in Eastern Uganda and Western Kenya」、単独、Meeting of JSPS Bi-lateral Research Programme, Gender and Women Studies, Makerere University, Uganda、2016年8月

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 基盤研究 (C)「東アフリカにおける高卒若年滞留層のライフコースと地方定着化／再流動化モデルの構築」(代表：白石壮一郎)、2015～2018年度

## 成 田 史 子

(1)現在の研究テーマ

- 労働法、企業組織再編

(2)著書、論文、その他

[論文]

- 成田史子「会社分割時の労働契約関係の承継と労働条件の変更(シンポジウム 企業変動における労使関係の法的課題)」『日本労働法学会誌』127号、pp.23-39、単著、2016年5月

- 成田史子「会社分割時の労働条件変更に関する一考察」公益財団法人労働問題リサーチセンター 報告書、pp.82-96、単著、2016年5月

[その他]

- 成田史子「No.64 事業譲渡と労働関係―東京日新学園事件」『労働判例百選 [第9版]』230号、pp.132-133、単著、2016年11月
- 成田史子「労働判例研究 (Number 1287) 組合員排除を目的とした法人格の濫用と地位確認請求：サカキ運輸ほか（法人格濫用）事件[長崎地裁平成27.6.16判決]」『ジュリスト = Monthly jurist』pp.152-155、単著、2016年12月

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 「サカキ運輸ほか（法人格濫用）事件・長崎地判平成27・6・16労判1121号20頁」東京大学労働判例研究会、単独、於東京大学、2016年4月8日
- 「企業変動・企業倒産と労働契約」東北大学社会法研究会、単独、於東北大学、2016年5月21日
- 「ドイツにおける企業再編時の労働条件変更・解雇規制」労働問題リサーチセンター研究会、於東京大学、2017年2月17日

[講演]

- 「日本型雇用システムにおける採用内定」Tribunal Regional do Trabalho 1 a Região（リオデジャネイロ労働裁判所）、於ブラジル・リオデジャネイロ、2016年9月1日

(5)海外出張・研修、そのほかの海外での活動など

- ブラジル、出張、2016年8月30日～9月7日
- ドイツ、出張、2016年12月7日～17日

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 若手研究B「企業組織再編手続における労働者保護規範の解釈論・立法論的提案」（研究代表者）（研究期間2016年4月1日～2019年3月31日（予定））。
- 基盤研究（B）「ハイブリッド型労働法における実体規制・手続規制と労使関与メカニズム」（研究分担者）（研究期間2014年4月1日～2017年3月31日）

## 河 合 正 雄

(1)現在の研究テーマ

- 受刑者の権利

(2)著書、論文、その他

[著書]

- 河合正雄「公正な裁判と人身の自由」、「請求権・国家賠償請求権」元山健，建石真公子編，小林直樹，長利一，宮井清暢，内藤光博，齋藤小百合，大河内美紀，馬場里美，河合正雄著『現代日本の憲法（第2版）』pp.350-366、共著、2016年4月、法律文化社
- 河合正雄「イギリス公法における年齢―選挙権年齢をめぐる動向を中心に―」山口直也編著，永水裕子，河合正雄，田巻帝子，高橋有紀，植松健一，鈴木博人，岡田行雄，中島宏，羽生香織，高内寿夫，梁邵英，金亮完，全炳昊著『子どもの法定年齢の比較法研究』pp.77-93、共著、2017年2月、成文堂

[その他]

- 林國姫，河合正雄訳「アジアの地域的人権保障機構の設立に向けて」『国際人権』第27号、pp.3-5、共著、2016年10月

(3)研究発表、講演

[研究発表]

- 河合正雄「絶対的無期刑と犯罪人引渡：ヨーロッパ人権条約3条の視点から」科研基盤研究A「『憲法の国際化』と『国際法の憲法化』の交錯下における新たな人権保障システム理論の構築」研究会、単独、明治大学駿河台キャンパス、2017年2月28日

(4)学外集中講義など

- 2015年度夏季集中講義「教育と憲法（日本国憲法）」電気通信大学、2016年9月12～14日、20日

(6)科学研究費補助金、そのほかの競争的研究資金など

- 若手研究（B）「受刑者の社会復帰に資する憲法学解釈の刷新―国際人権法に基づく司法の関与の検討」（研究代表者）2016～2018年度
- 基盤研究（B）「イギリス憲法の「現代化」と比較憲法モデル構築のための総合的研究」（研究分担者）2015～2017年度